



SIC Annual Report 2015

(平成27年度事業報告)

平成28年8月31日



株式会社さがみはら産業創造センター
Sagamihara Incubation Center Ltd.

INDEX

1	インキュベーション施設と入居企業	
1	SIC-1	p1. 2
2	SIC-2	p3. 4
3	SIC-3	p5. 6
4	Desk ¹⁰	p7
5	SIC 全体	p8
2	SIC 実施事業	
	ー経営サポートー	
1	企業支援	p9
2	セミナー	p10.11
	ー技術開発ー	
3	SIC 燃料電池研究会	p12
4	かながわ環境関連産業ネットワーク事業	p13
5	さがみはら表面技術研究所	p14
6	首都圏南西地域連携サポート事業	p15.16
7	産業用ロボット導入支援事業	p17
	ー人材育成ー	
8	SIC 経営塾	p18
9	SIC 職場リーダー養成塾	p19
10	SIC カイゼン・スクール	p20
11	さがみはら子どもアントレプレナー体験事業	p21
12	SIC アントレ・インターンシップ	p22
13	サガツクナビ（地域産業界の人づくり支援事業）	p23
	ー資金調達ー	
14	SIC 1号投資事業有限責任組合	p24
	ー販路開拓ー	
15	台湾ビジネスサポート事業	p25
	ーインキュベーションコンサルタントー	
17	運営サポート事業	p26
3	SIC 会社概要	
1	さがみはら産業創造センターの歩み	p27
2	主な事業と開始年度（カテゴリー別）	p28
3	財務状況	p29
4	競争的資金の獲得	p30
5	SIC 及び SIC ファンドの出資	p31
6	スタッフ数の変遷	p31
7	支援ネットワーク	p31
8	海外及び国内からの視察受け入れ	p32
9	新聞掲載	p33
10	広報紙「かわらばん」の発行	p34
11	株主と役員	p35

1-1-1

S I C - 1 (インキュベーションセンター)

入居対象

<新規創業者>

- ・創業準備中または創業間もない企業および個人
- ・研究開発により、新技術や新製品の創出を図り、その事業化を目指す創業間もない企業および個人

<企業>

- ・新分野進出により経営基盤の強化を目指す中小企業
- ・研究開発により新技術や新製品の創出を図り、その事業化を目指す中小企業

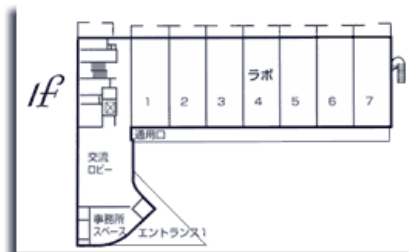
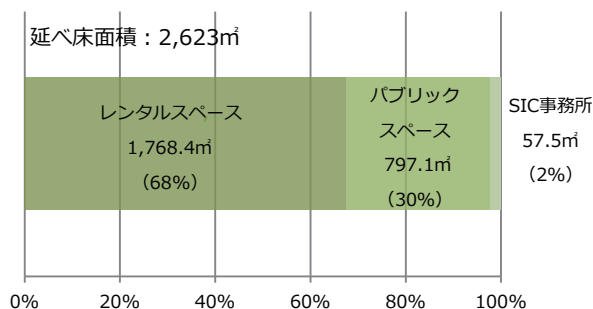
<専門家>

- ・入居企業および地域企業、創業者をサポートすることの出来る専門家
(弁護士、公認会計士、税理士、弁理士、デザイナーなど)

入居期間

3年間(2年間の再契約が2回可)

施設概要



1階平面図



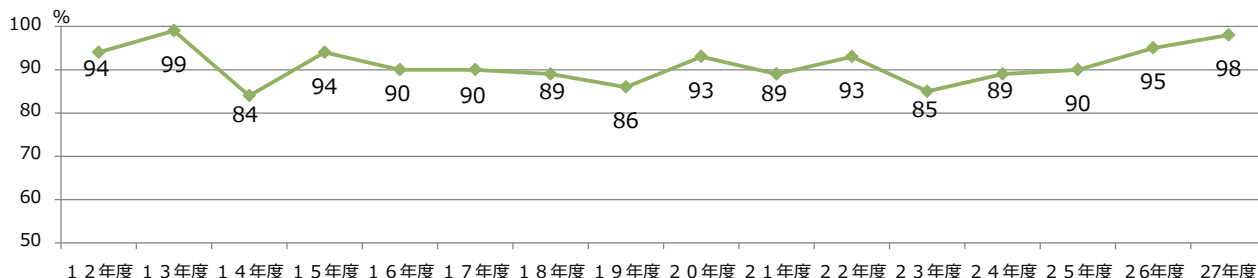
2階平面図



3階平面図

	ラボ	セミラボ A	セミラボ B	スモール オフィス A	スモール オフィス B
設置階	1 階	2 階		3 階	
部屋数	7 室	7 室	7 室	11 室	13 室
床面積	94.5㎡	47.3㎡	31.5㎡	23.6㎡	17.3㎡

入居率 (賃料ベース)

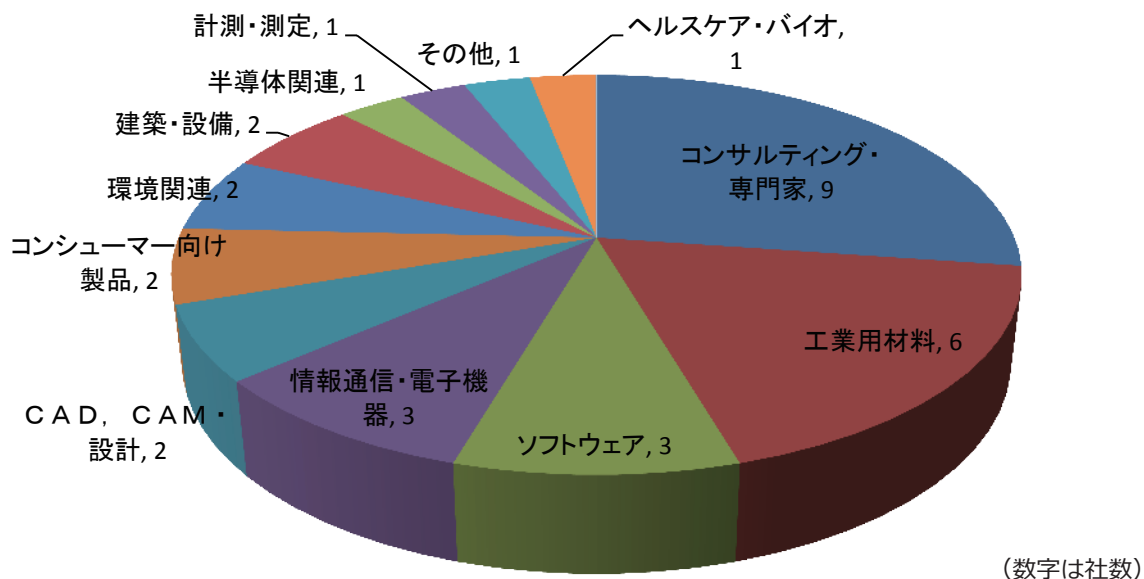


1-1-2

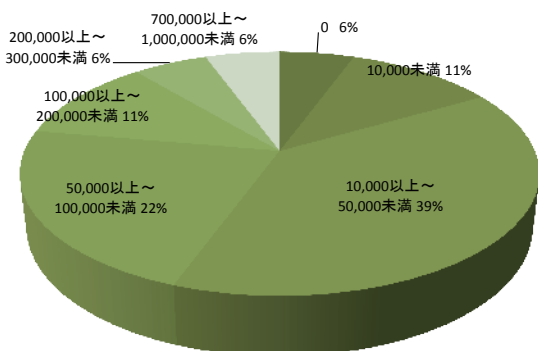
S I C - 1

入居企業データ (平成28年3月期)

業種

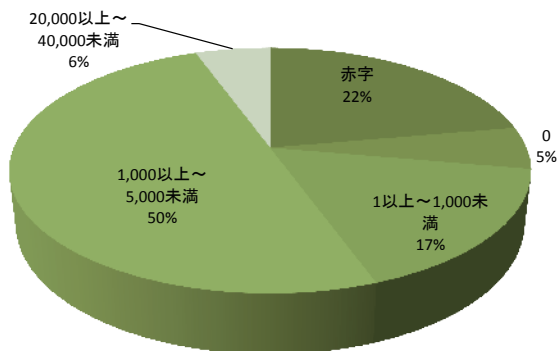


売上高



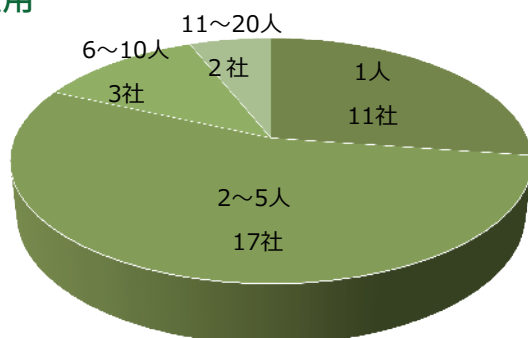
単位：千円

最終利益 (税引き後利益)

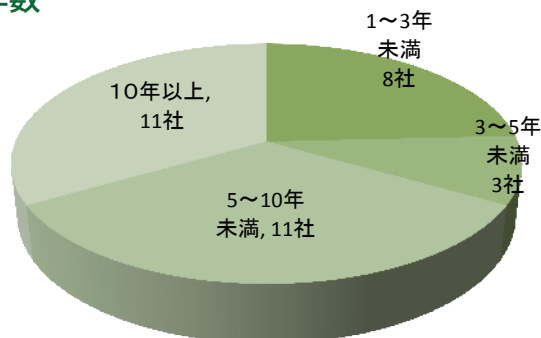


単位：千円

雇用



創業年数



売上高合計	1,788,578 千円
雇用者合計	33 社 112 人

1-2-1

SIC-2 (ポストインキュベーションセンター)

入居対象

<企業>

- ・創業期を経てさらなる規模拡大を目指す企業
- ・新分野進出によりさらなる規模拡大を目指す企業
- ・優れた技術・サービスを保有し、株式公開を目指す企業
- ・企業の研究開発部門

<産学連携企業等>

- ・産学連携による事業化を目指し、共同研究開発を行うグループ、企業、研究者等
- ・大学発の技術を活用し、事業化を目指すグループ、企業、研究者等
- ・大学研究室

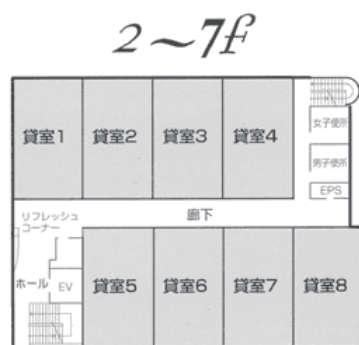
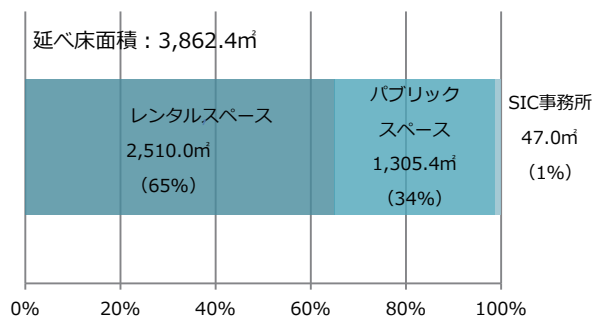


1階平面図

入居期間

期間制限なし

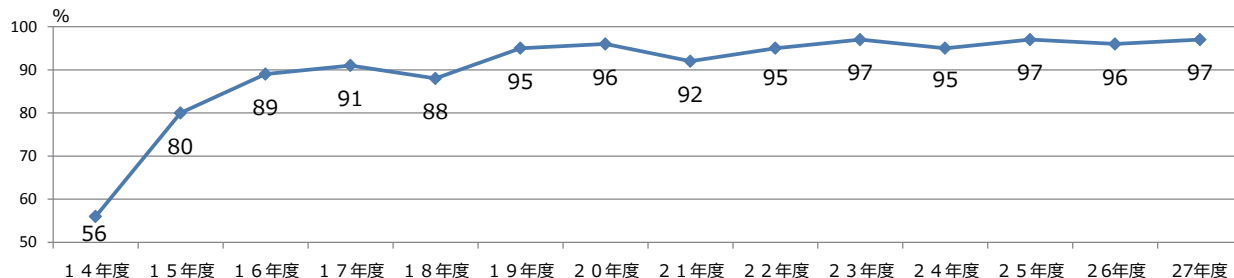
施設概要



2～7階平面図

	セミラボ	オフィス
設置階	1～4階	5～7階
部屋数	26室	24室
床面積	50.2㎡	50.2㎡

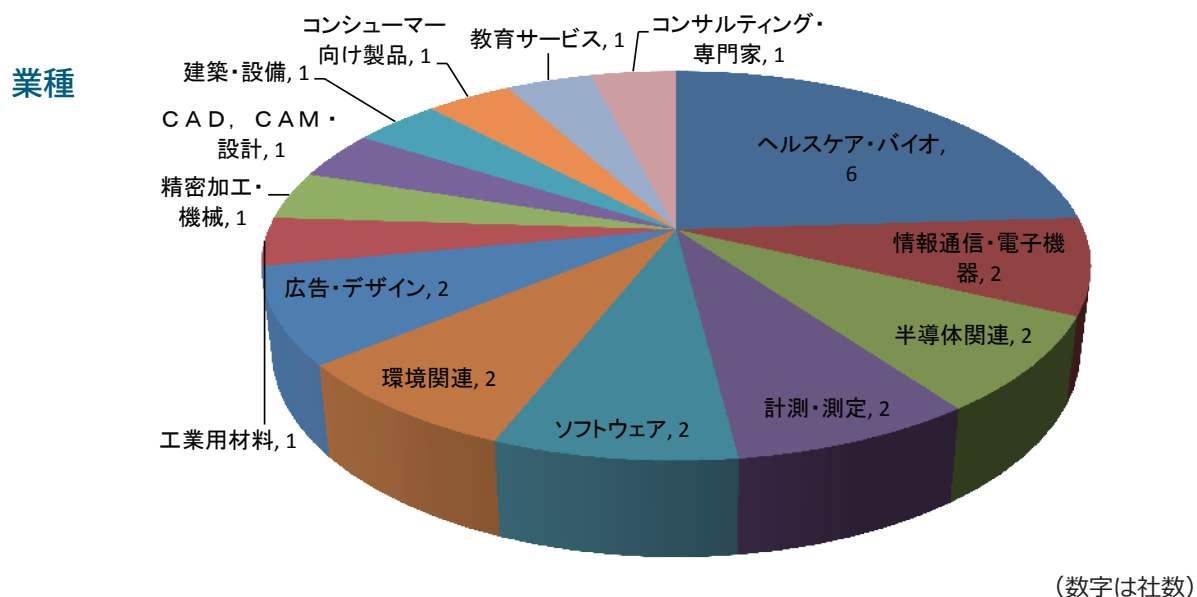
入居率 (賃料ベース)



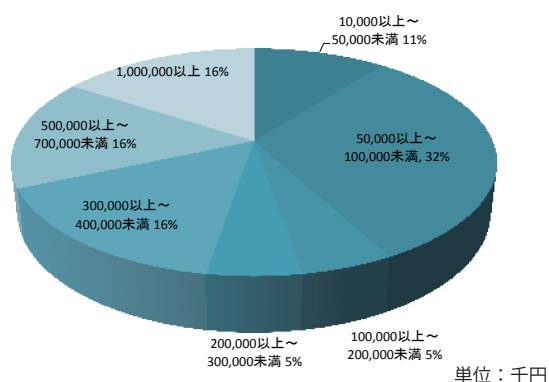
1-2-2

S I C - 2

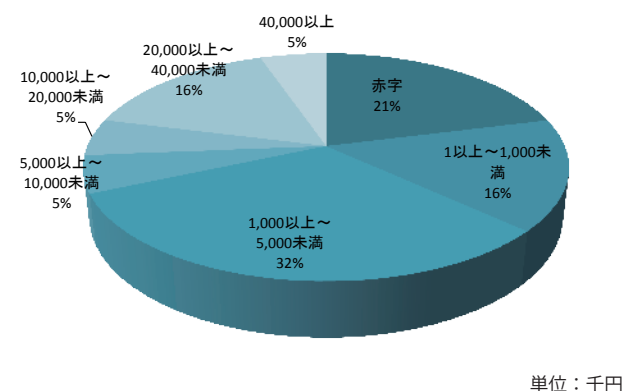
入居企業データ (平成28年3月期)



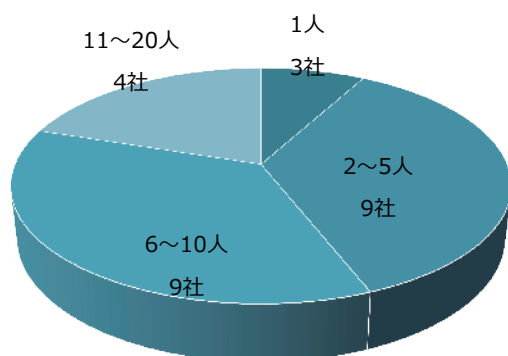
売上高



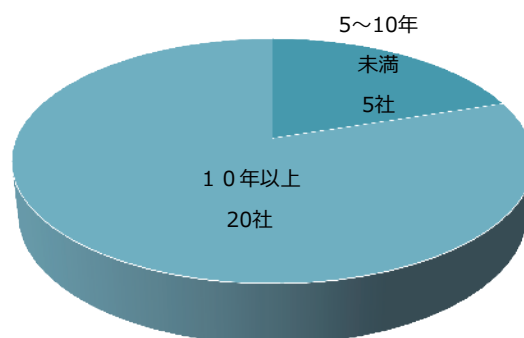
最終利益 (税引き後利益)



雇用



創業年数



売上高合計	37,887,948 千円
雇用者合計	25 社 172 人

1-3-1

SIC-3 (イノベーションラボ)

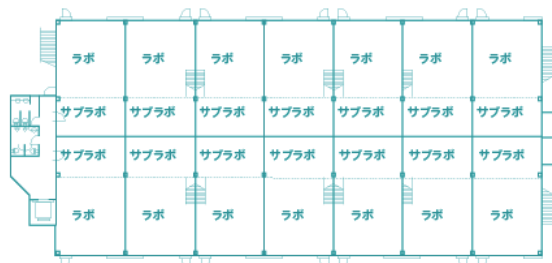
入居対象

＜企業＞

- ・インキュベーション施設での創業期を経て、更なる規模拡大を目指す企業
- ・独創的な技術により、更なる規模拡大を目指す地域の中小起業

＜産学連携企業等＞

- ・大学や企業間の連携による事業化を目指して共同研究開発を行うグループ

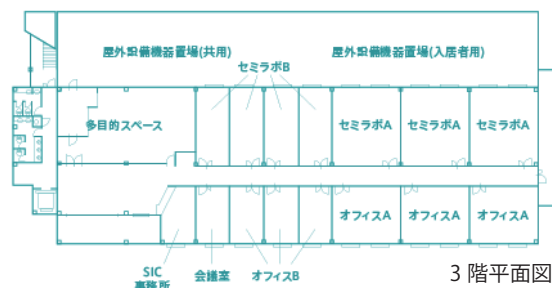
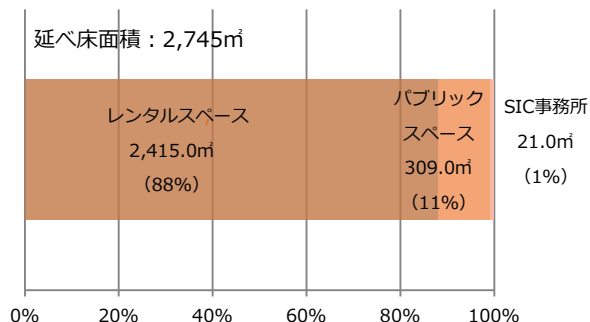


1階, 中2階平面図

入居期間

5年間（再契約可能）

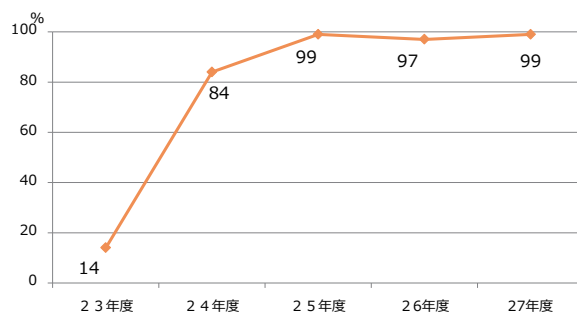
施設概要



3階平面図

	ラボ	セミラボA	セミラボB	オフィスA	オフィスB
設置階	1階 : 中2階		3階		
部屋数	14室	3室	3室	4室	3室
床面積	84㎡ : 28㎡ ²	56㎡ ²	28㎡ ²	42㎡ ²	21㎡ ²

入居率（賃料ベース）

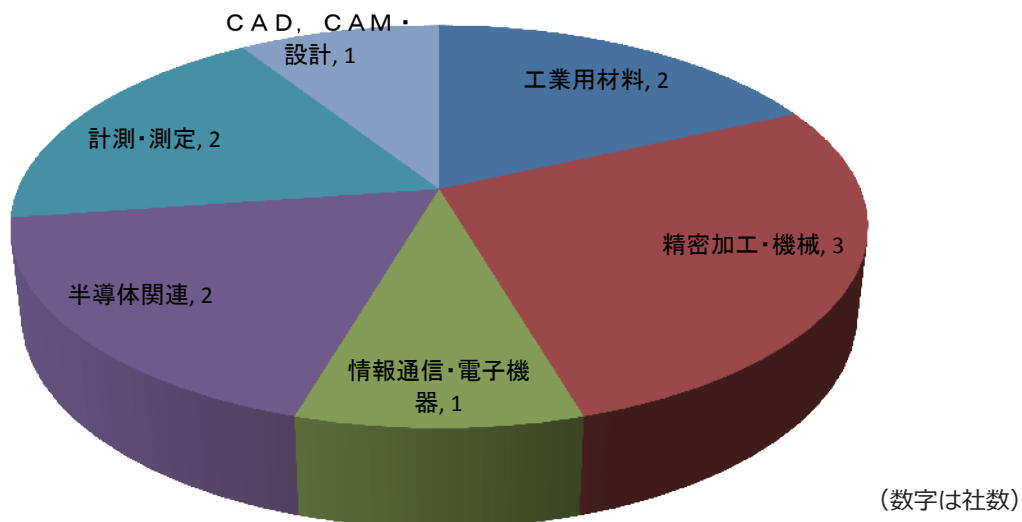


1-3-2

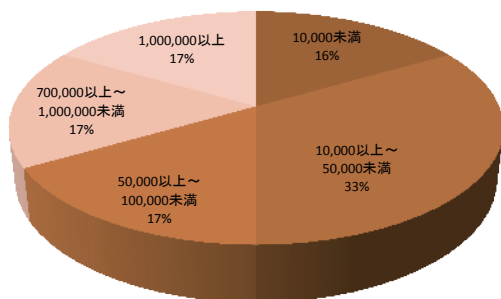
S I C - 3

入居企業データ (平成28年3月期)

業種

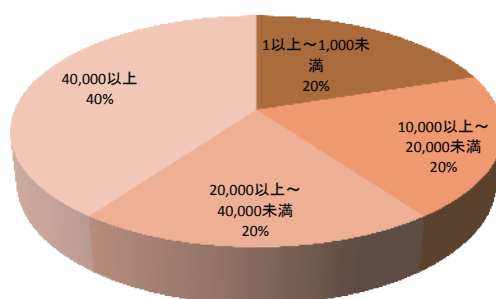


売上高



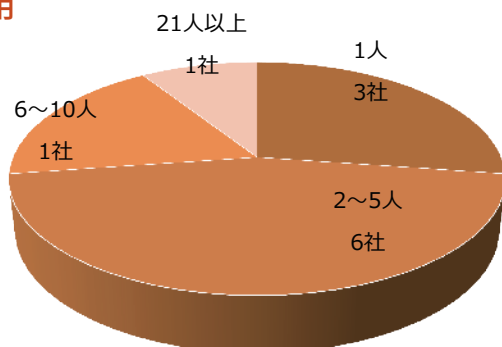
単位：千円

最終利益 (税引き後利益)

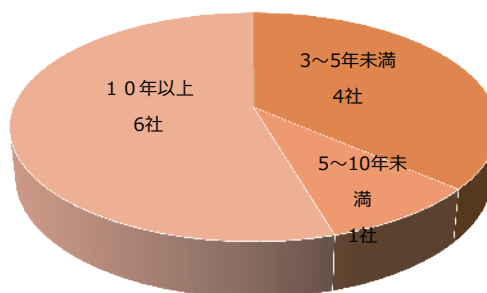


単位：千円

雇用



創業年数



売上高合計	2,805,162 千円
雇用者合計	11 社 76 人

1-4

Desk^⑩ (インキュベーション型シェアードオフィス)

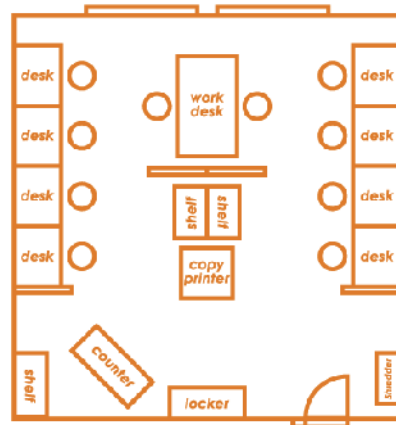
Desk^⑩とは

Desk10 (デスクテン) は創業者または創業準備中の方などがビジネスに必要な機能を他の会員とシェアすることでオフィスがリーズナブルに利用できるサービスです。事務機器や会議室なども利用できて、住所使用も可能。しかも、サービスを提供するのは15年以上にわたりインキュベーション施設を運営しているSICで、経験豊富なインキュベーションマネージャーも常駐しています。

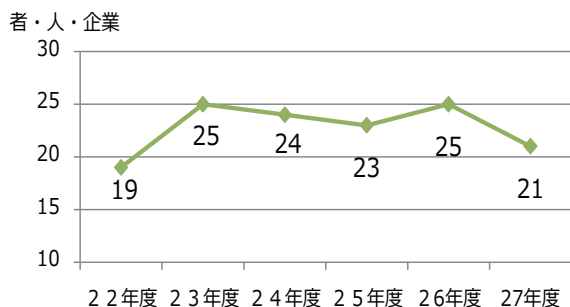
各種サービス

デスク(フリーアドレス)、ワークスペース、オフィス機器、住所使用、専用ロッカー、打ち合わせ・商談スペース、リフレッシュルーム、貸し会議室

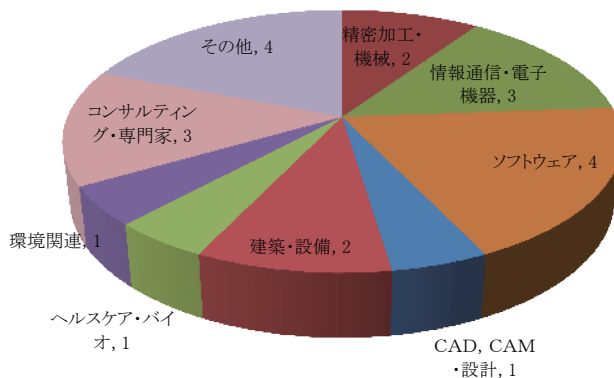
オフィス平面図



入居者数



業種

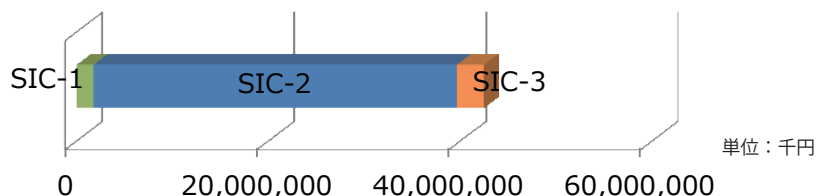


1-5

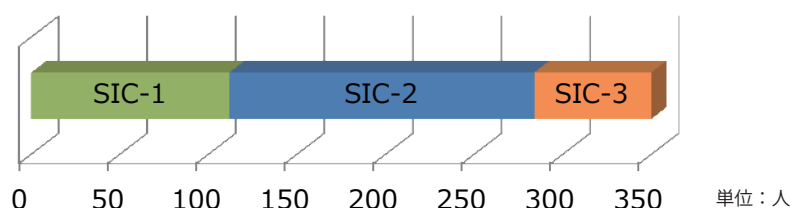
S I C 全体

入居企業データ (平成 28 年 3 月期)

売上高 42,481,688 千円



雇用 360 名



知的財産 (平成 27 年度内)

	特 許		実 用 新 案		意 匠		商 標	
	企業数	件数	企業数	件数	企業数	件数	企業数	件数
出願数	7	18	0	0	1	1	1	1
うち海外	5	11	0	0	0	0	0	0
権利化数	7	26	0	0	1	0	2	2
うち海外	3	11	0	0	0	0	0	0

研究開発補助金 (平成 27 年度内) 9 社 12 件

戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン事業)、平成 27 年度補正「ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金」、厚労科研費補助金、中小企業小規模事業ものづくり補助金、埼玉県次世代産業参入支援事業、小規模事業者持続化補助金、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業、H27 年度中小企業経営支援等対策費補助金、戦略的省エネルギー技術革新プログラム実証開発、A-S T E P、中小企業経営安定改善支援事業費補助金、商業・サービス競争力強化連携支援事業等

展示会出展 (平成 27 年度内) 14 社 35 件 (海外開催含む)

OPIE2015、日本香粧品学会、NEDO 省エネフォーラム、新価値創造展 2015、BIO International 2015、ナノマイクロビジネス展、IN-COSMETICS Korea、センサエキスポジャパン、欧州 PV-SEC (オランダ アムステルダム)、モーションエンジニアリング展、日本獣医師会獣医学術学会年次大会、画像センシング展、ALD2015、第 31 回ワイヤレス・アジア・コンテスト、インターオプト 2015、協創マッチングフォーラム、下水道展 2015、エヌプラス、BIO-Europe 2015、Sensor Expo&Conference、第 13 回 Business Link、PV-TAIWAN (台湾 台北)、M-TECH (機械要素技術展) 東京、動物感謝デー、国際画像機器展、Bio Japan 2015、イノベーションリーダーズサミット、IEEE (米国 ニューオリンズ)、テクノフロンティア、バイオジャパン、高機能フィルム展 大阪 (東京)、BIO-Asia2016、さいたまビジネスアリーナ、日本獣医内科学アカデミー、アグロイノベーション等

新製品・新サービス (平成 27 年度内) 8 社 17 件

環境対応型塗装下地処理剤、超微量秤量用アルミ箔ボード、Web 診断サービス、高効率太陽電池高精度高速測定技術、ネジのテーピング、ネクストガードスペクトラ、エメリタス (美容液)、SPX-TA200 ライン光源、酸素分析、ソフトウェアテストモジュール化支援、太陽光発電所塩害対策低コスト持続箱、DSP-Servo、ブロードライン、Makrosopt、アレルボックス、Makroso-cf 検査装置、メディダーム等

2-1

経営サポート

企業支援

事業の目的

創業や新分野進出に意欲的な入居企業や地域企業の様々な経営課題を解決する。

▶ 経営課題支援の内容

対 象：入居企業・地域企業

支援手法：インキュベーションマネージャーとメンター、アドバイザー、専門家等が連携した支援

協力機関：八千代銀行

支援契約数：業務委託契約 40 社、顧問契約 11 社（入居企業 6 社、地域企業 5 社）

支 援 内 容		入居 企業数	地域 企業数	計
顧問契約		6 社	5 社	11 社
業務委託契約	事業計画	5 社	5 社	10 社
	補助金申請・進捗管理支援	6 社	3 社	9 社
	W E B 制作	—	1 社	1 社
	会社案内制作	—	6 社	6 社
	製品案内制作	—	4 社	4 社
	動画制作	—	3 社	3 社
	展示会 P R 支援	—	2 社	2 社
	ビジネスマッチング	1 社	—	1 社
	特許・商標	—	1 社	1 社
	カイゼン・工場監査支援	—	1 社	1 社
	労務（就業規則）	1 社	1 社	2 社
	計	13 社	27 社	40 社

2-2-1

経営サポート

セミナー (1)

事業の目的

入居企業や地域企業に経営のヒントを提供する。

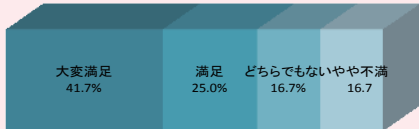
対 象：入居企業・地域企業

実施事業	参加人数	具 体 的 内 容
経営者セミナー	44 名	テーマ：相模原発！日本のエネルギー社会をリードするベンチャー企業 ～俺流 夢の叶え方～ 講師：馬本 英一 氏（日本テクノ株式会社 代表取締役社長） 日時：平成 27 年 9 月 18 日（金） 場所：杜のホールはしもと（多目的室） 
ミニセミナー	16 名	The HINT 21 テーマ：「PR ツールとしての動画活用術」～効果的なアプローチの仕方をご紹介～ 講師：プラスアルファドットティーヴィー 代表 北 桂樹 氏 日時：平成 27 年 5 月 19 日（火） 場所：さがみはら産業創造センター 
	6 名	The HINT 22 テーマ：「効果的な知的財産戦略&知っておきたい知的財産制度」 講師：特許業務法人大貫小竹国際特許事務所 代表・弁理士 大貫 和保 氏 日時：平成 27 年 6 月 11 日（木） 場所：さがみはら産業創造センター
	1 名	The HINT 23（個別相談会） テーマ：「ビジネスチャンスを生み出す展示会出展の極意！」 講師：ワンプロモーション株式会社 代表取締役 櫛間 一 緒 氏 日時：平成 27 年 7 月 16 日（木） 場所：さがみはら産業創造センター
	18 名	The HINT 24 テーマ：「マイナンバー制度が始まる前の『こころがまえ』」 ～事前準備や実務対応のご紹介～ 講師：みどり社会保険労務士事務所 代表 五十嵐 典子 氏 日時：平成 27 年 9 月 8 日（火） 場所：さがみはら産業創造センター 

2-2-2

経営サポート

セミナー (2)

実施事業	参加人数	具 体 的 内 容
ミニセミナー	17 名	The HINT 25 テーマ：「業績アップにつなげるホームページ運用術（WordPress 活用編）」 講師：有限会社コウチャ 代表取締役 藤田 実 氏 日時：平成 27 年 10 月 13 日（火） 場所：さがみはら産業創造センター 
	8 名	The HINT 26 テーマ：「資金繰り（表）・・・理解してますか？」 ～資金繰り表の作成と活用のための基礎知識～ 講師：天野俊裕税理士事務所 代表 天野 俊裕 氏 日時：平成 27 年 11 月 12 日（木） 場所：さがみはら産業創造センター 
	10 名	The HINT 27 テーマ：「事例から学ぶ！心に訴えるデザイン活用法」 ～現在の会社案内やパンフレットに手応えを感じてますか？～ 講師：こぞ企画 代表 小崎 直利 氏 日時：平成 28 年 1 月 19 日（火） 場所：さがみはら産業創造センター 
	14 名	The HINT 28 テーマ：「企業間取引での契約書のチェックポイント！」 講師：弁護士法人高瀬総合法律事務所 代表・弁護士 高瀬 芳明 氏 日時：平成 28 年 3 月 15 日（火） 場所：さがみはら産業創造センター 

2-3

技術開発

SIC 燃料電池研究会

事業の目的

燃料電池及び新エネルギー関連分野に係わる産学官連携や企業間連携体を構築し、研究開発成果の事業展開に向けたプロモーションを推進するとともに、展示会などへの出展や情報発信を行うことで、ビジネスチャンスの発掘と事業の拡大を図る。

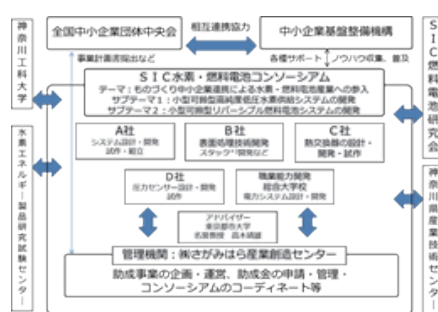
事業概要

1. 家庭用燃料電池周辺機器開発プロジェクト

- 家庭用燃料電池『エネファーム』周辺機器開発やシステムメーカーへのスペックイン（地域企業の PEFC システムメーカー 2 社及び SOFC システムメーカー 3 社への参入支援を実施。）

2. 燃料電池システム開発プロジェクト（可搬型燃料電池システムの開発など）

- 平成 27 年度ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業（中小機構・全国中央会）に継続採択され、昨年度より手がけた小型可搬型高純度低圧水素供給システムの開発の試作開発品を完成させた。あらたに小型可搬型リバーシブル燃料電池システムの開発を開始した。また、各種開発部品や機器類の安全性・信頼性についての評価試験も昨年同様実施した。



3. SIC 低炭素プロジェクト

- 平成 21 年度経済産業省低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業の応用研究当事業における成果を SIC 水素・燃料電池コンソーシアムに反映

4. 販路開拓プロジェクト

- 研究会活動における開発成果や関連する自社製品を市場へと結びつける仕組みを検討。会員企業及び会員協力企業との連携により用途開発への展開を実施した。

27 年度の成果

今年度会員数：民間企業 13 社（30 名）2 大学 1 公設試が参画
（H26 年度 13 社より 1 社退会、新規入会 1 社）

【プロジェクト成果】

- 平成 27 年度研究会活動概要説明会実施
- 第 1 回全体合同研究会活動実施
- 小型可搬型高純度低圧水素供給システムの開発継続及び完成
- 各種開発部品や機器類の安全性・信頼性評価試験の実施
- インケムジャパン 2015 水素エネルギー技術展への出展
- 2016 国際水素燃料電池展への出展
- 研究会創立 10 周年記念会・懇親会を実施

	大手企業	中小企業	大学・関係機関
市内	1	5	0
市外	2	5	3

2-4

技術開発

かながわ環境関連産業ネットワーク事業

事業の目的

環境関連産業の多様な担い手が、自主的に参加できる新たなネットワークを構築し、専門コーディネータによる起業・事業化支援策の紹介やビジネスマッチングなど、様々な取り組みを総合的に展開することにより、環境関連産業の更なる振興を図る。

事業概念



活動概要

H23 年度より神奈川県内外より広く募集している、かながわ環境関連産業ネットワーク会員から、関連するものづくり開発テーマを募集し、クローズな発表会やグループミーティングなどにて有力候補を絞り込み、共同開発プロジェクトの組成・公的資金申請を計画し、以下5プロジェクトへの支援と成果を得た。

- ・エネファーム補機開発プロジェクト
- ・エネファーム試作機開発への参入
- ・県内有力国立大学及び関連企業との連携
- ・大学発ベンチャー企業の成長支援
- ・水素・燃料電池コンソーシアムの継続採択による活動



27年度の成果

○ネットワーク会員 143 名（昨年度 127 名）。昨年度から 16 名の増員となった。

○第9回 創・蓄・省エネフォーラム（参加者：90名）

- ①「水素社会実現に向けた神奈川県の取り組み」
講師：神奈川県 産業労働局 エネルギー部 スマートエネルギー課 課長 村上剛史氏
 - ②「災害用自立型水素発電・飲料水供給システムの紹介」
講師：日本フイルコン株式会社 総合研究開発室 課長補佐 神田和幸氏
 - ③「水素社会の実現（エネファーム、燃料電池自動車等の普及促進等）に向けた国の取り組み」
講師：経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 燃料電池推進室 室長補佐 星野昌志氏
 - ④「エネファームの進化と普及拡大に向けた取り組み」
講師：パナソニック株式会社 アプライアンス社 スマートエネルギーシステム事業部 燃料電池事業担当 清水俊克氏
 - ⑤燃料電池自動車（FCV）の開発と初期市場の創出
講師：トヨタ自動車株式会社 技術統括部 担当部長 河合大洋氏
- ＜イベントプログラム＞
- ◎燃料電池自動車『MIRAI』（神奈川県所有車）運転試乗会
 - ◎燃料電池システム開発メーカーなどの成果品展示



○第10回 創・蓄・省エネフォーラム（参加者：34名）

- ①神奈川県産業技術センターにおける燃料電池関連技術支援の取り組み
講師：神奈川県産業技術センター 化学技術部
- ②電気化学的手法による水素・燃料電池技術開発へのアプローチ
講師：株式会社Kmラボ（元横浜国立大学 大学院工学研究院 教授） 代表取締役 神谷 信行氏
- ③「燃料電池の最大効率点検出（MEPD）法の研究」
講師：神奈川工科大学 工学部 電気電子情報工学科 教授 板子一隆氏
- ④水素エネルギー適用の日本の取り組みと未来にむけた用途開発および世界的な動きについて
講師：東京都市大学 名誉教授 高木 靖雄氏

2-5

技術開発

さがみはら表面技術研究所

事業の目的

地域企業と大学・研究機関の連携・交流機能を整備・運用し、企業の技術的な強みを活かした事業開発に貢献する。

活動実績

	活動内容	件数
1	技術相談・コーディネート・技術支援等	115
2	交流会・イベント開催	4
3	広報活動（講演・メディア掲載・ラジオ出演等）	15
	合 計	134



活動実績 事例

1. 技術相談・コーディネート・委託業務等

- ①ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等補助金に係る補助金（平成 26 年度補正・中小企業庁）では、各中小企業向けに申請書の作成支援、採択後は事業開発のアドバイスや推進のサポートを行った。支援した企業は、化学工業・電子部品・理化学機器・機械製造会社など多岐にわたり、定期的に年間を通して技術アドバイス等を行った。
- ②相模原市新技術実用化コンソーシアム形成支援事業「ハーブ等植物の家庭用高効率栽培システムの開発」では産業支援機関として事業管理を担当した（相模原市の委託業務）。各協力企業・大学とのコーディネートをはじめ、市内高齢者福祉施設でのモニター実施や市場調査、開発提案等で寄与した。
- ③企業の経営戦略支援業務を受託し、中間管理職向けの人材育成支援を担当した。年間を通して社員のスキル向上につながるテーマを設定しワークショップ形式などで開催したり、若手社員の個別コーチング等も行った。
- ④「地熱発電技術研究開発 / 低温域の地熱資源活用のための小型バイナリー発電システムの開発 / 温泉蒸気と温水を有効活用し、腐食・スケール対策を施したハイブリット型小規模発電システムの開発」（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO））では再委託先として、スケールおよび腐食性ガスの調査等を担当した。
- ⑤東北大学流体科学研究所と共同研究を行い、国際学会にて成果を発表した。
（International Conference Flow Dynamics『Growth of Multigraphene on Pencil Drawing Paper Irradiated by Femtosecond Laser』）
- ⑥南西フォーラム支援事業では延べ 32 社の相談案件に携わり、技術アドバイスやコーディネート支援等を行った。



2. 技術交流会・イベント開催

各種事業や協力機関と関係の深い顧客、共同研究者、装置メーカーらを招き交流会を開催した。アットホームな雰囲気の中で各人が交流できる場を提供し、企業同士のマッチングにより、新規ビジネス展開のきっかけ作りに貢献した。



3. 広報活動（講演・メディア掲載・ラジオ出演等）

立教大教授・山口義行氏が主宰する、中小企業サポートネットワーク Small Sun 配信のインターネットラジオでパーソナリティを務め、ものづくり企業を紹介している。

<http://ss-ir.blogspot.jp/search/label>

相模原市立田名中学校や大学・学会や各種企業団体での講演に招聘され、表面研の活動を通して、オープンイノベーションや事業発展におけるコミュニケーションの大切さ等について紹介した。



2-6-1

技術開発

首都圏南西地域連携サポート事業（フォーラム）

事業の目的

相模原市を中心とした神奈川県県央地域及び町田市、八王子市に広がる首都圏南西地域において、企業、大学・研究機関、金融機関及び支援機関の広域連携の場として首都圏南西地域産業活性化フォーラムを開催し、さらには、産学官連携による分科会・研究会の推進や情報提供を通じ、新事業の創出や技術の高度化などによる地域産業の活性化を目指す。

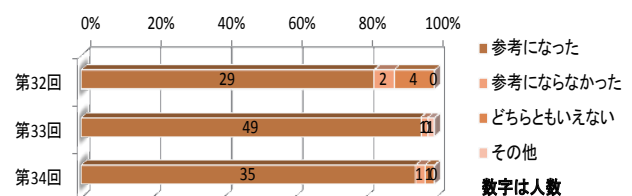


参加者数

南西フォーラム	
第 32 回	72 名
第 33 回	113 名
第 34 回	101 名
計	286 名



顧客満足度



顧客の声

・モノづくり中小企業の高い技術が鉄道産業を支えていることを知った。・視野の拡大につながった。・思考→決断→実行というプロセスの重要性を改めて痛感した。・経営をしていく上で自身の考えを見直す良い機会となった。・新規事業参入への失敗と成功の事例を聞き、大変参考になった。



概要

南西フォーラム

第 32 回 平成 27 年 7 月 24 日

iPS 細胞が拓く未来とモノづくり企業

○「iPS 細胞関連機器ビジネス参入のポイントと参入事例」

中小企業基盤整備機構 クリエイション・コア京都御車 チーフインキュベーションマネージャー iPSビジ 促進拠点事務局長 山戸 俊幸 氏

○「iPS 細胞の最新動向と創薬開発及び再生医療の今後」株式会社 iPS ポータル プロダクト開発事業部長 早乙女 秀雄 氏

第 33 回 平成 27 年 12 月 8 日

今こそ航空・宇宙産業へ ～事例から中小モノづくり企業の参入を考える～

○「共同工場で航空機ジェットエンジン部品を一貫生産」JASPA 株式会社 代表取締役 阿部 和幸 氏

○「高い精密加工技術で宇宙に挑む「研究開発型町工場」」株式会社由紀精密 代表取締役 大坪 正人 氏

○「長年の夢 航空産業に参入 ー無人飛行機に挑むー」株式会社コバヤシ精密工業 小林 昌純 氏

第 34 回 平成 28 年 2 月 10 日

カラクリ技術のファブレスメーカー ー建築用ドア装置開発メーカーから鉄道業界へー

○「カラクリ技術のファブレスメーカー ー建築用ドア装置開発メーカーから鉄道業界へー」株式会社アイスリー 代表取締役 石井 正一 氏

○「お客様のしたいをカタチにするものづくりー公共交通機関向け自動放送システムで鉄道業界を席巻ー」

株式会社 MEMO テクノス 代表取締役 渡邊 将文 氏

○「高いプレス加工技術で鉄道業界へ ー進化型モノづくり企業の挑戦ー」有限会社光製作所 代表取締役 丸山 祐司 氏

○「日立が進める鉄道車両の生産改革とグローバル化ー今までとこれからー」

株式会社日立製作所 交通システム社 笠戸事業所 副事業所長 荒川 賢一 氏

2-6-2

技術開発

首都圏南西地域連携サポート事業（分科会）

事業の目的

相模原市を中心とした神奈川県県央地域及び町田市、八王子市に広がる首都圏南西地域において、企業、大学・研究機関、金融機関及び支援機関の広域連携の場として首都圏南西地域産業活性化フォーラムを開催し、さらには、産学官連携による分科会・研究会の推進や情報提供を通じ、新事業の創出や技術の高度化などによる地域産業の活性化を目指す。



参加者数

3D プリンター分科会		業務系アプリ研究会		iPS 細胞分科会	
第4回	15名	第7回	22名	第1回	11名
特別回	13名	第8回	21名	第2回	7名
第5回	13名	第9回	16名		
		第10回	16名		
計	41名	計	75名	計	18名

開催日		内容
3D プリンター 分科会	第4回 平成27年10月6日	3D プリンター、3DCAD に関するセミナー キャノンシステムアンドサポート株式会社
	特別回 平成27年11月27日	3D データ作成のハンズオンセミナー キャノンシステムアンドサポート株式会社
	第5回 平成27年12月15日	3D 造形、IoT 実証実験セミナー キャノンシステムアンドサポート株式会社
業務系 アプリ 研究会	第7回 平成27年5月28日	File Maker の事例紹介 ITC 多摩協議会 ロボット事業の取り組み紹介 相模原市
	第8回 平成27年7月31日	ドコモが取り組むアプリ事業「HiTAP®（ハイタップ）」の紹介 株式会社NTT ドコモ ロボット事業の取り組み紹介 相模原市
	第9回 平成27年10月2日	テレワーク支援サービス「Easy to Work」の紹介 株式会社ハイスポット 「人生第三幕～新たなビジネス展開～」をテーマに創業について講演 株式会社アドBB
	第10回 平成28年1月22日	統計心理学を利用した指導コミュニケーションツール「生年月日カルテ」の紹介 株式会社テクニカルエンジニアリングサポート
iPS 細胞 分科会	第1回 平成27年9月14日	株式会社 iPS ポータル ラボショールーム訪問見学
	第2回 平成27年9月24日	iPS 細胞ビジネス協議会主催「第17回情報交換会」参加

2-7

技術開発

産業用ロボット導入支援事業

事業の目的

相模原市内企業への産業用ロボットの導入を支援し、生産プロセスの高度化による生産性向上等を図る。

概要

(1) ロボット導入支援センター整備事業

産業用ロボットの展示、簡易相談及びロボット操作教育、業務実施場所として「ロボット導入支援センター」をSIC-2 セミラボに整備し9月にオープンした。

来所者実績（9月～3月の7か月間）

○期間累計：延べ224団体、687名（内、製造業者：81社）



(2) モデルケース・導入ニーズ調査事業

産業用ロボット導入が進んでいない工程への導入を支援するために、ロボットメーカー・システムインテグレータなどロボット関連企業の調査、ロボット導入を検討する企業への簡易自動化相談及び自動化診断などの活動を実施した。

簡易自動化相談：自社の自動化・自動化設備の仕様・販路開拓などの簡易自動化相談を実施した。

○会社数 22社（市内企業15社、市外企業7社）

自動化診断：ロボットなど自動化設備の導入を検討している企業の工場を訪問し、自動化診断とともに、ロボットによる自動化システム、作業改善・工程改善による生産性向上施策などの提案を行った。 ○会社数 9社（市内企業8社、市外企業1社）

(3) カイゼン支援事業

中小製造業の中堅エンジニアを対象に、自動化や省人化を進める上での知識や考え方などについて学ぶ「自動化・省人化支援セミナー」を2期（計10回）開催。

受講者数：10月期コース 21名

1月期コース 14名 計35名

開催会場：さがみはら産業創造センター

SIC-2 大会議室 ほか

講師：大学研究者やメーカー技術者



(4) ロボット技術者育成事業

産業用ロボットの導入を検討している企業のエンジニアを対象に、産業用ロボット導入に必要な基礎的な技術講座として、安全教育及び基本的な操作やプログラミングを学ぶ「ロボット操作教育（基礎コース）セミナー」を4期（計8日）開催。

受講者数：4期計29名

講師：三菱電機システムサービス株式会社



(5) システムインテグレータ育成事業

ソフトウェア会社エンジニアを対象に、システムインテグレータ及びその候補企業等を対象とした、ロボット用オープンソースソフトウェアを学ぶ集合研修として「オープンソース講習会」を開催した。

開催日程：平成28年1月16日・30日、2月6日 計3日

受講者数：5社11名

講師：東京オープンソースロボティクス協会

2-8

人材育成

SIC 経営塾

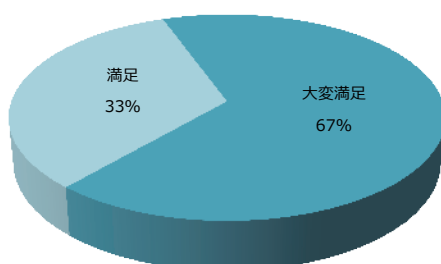
事業の目的

先端的なケーススタディを通じ、経営の理論と実践を学び、塾生自らが事業構想を再構築することにより、「真の経営力」を養成することを最終目的としています。

▶ 受講生

- ・ 9名 累計 127名
- ・ 次世代の経営者や経営幹部の受講生が多い

▶ 顧客満足度



▶ 顧客の声

- ・ ここで学んだ考え方で今後、計画を立てていきたいと思います。
- ・ 自身にとって有り難い9か月間でした。
- ・ SIC 経営塾での気付きや視点・視野が広がりました。
- ・ 講義で使用する素材が常に新しいものなので刺激になりました。
- ・ 客観的に自社を見つめるのに良い機会となりました。
- ・ 学んだことを振り返り、社員と共有しながら社業に活かしていきたいと思います。
- ・ 14回という回を重ねた塾だけあって、充実した講義の内容となっていました。

▶ 活動内容

講義

最先端の経営理論を学びます。

- 先端企業経営者の実体験や様々な先進的な取り組み事例を通して最新の経営理論と実例を学び、自社の課題に置き換えて検証します。



討論

塾生、コーディネータとの討議を重視します。

- 課題図書、事例研究を基に、異業種の方との討論が自社を見つめ直し、自社の事業構想を構築する良い機会となるでしょう。



事業構想の再構築

最終ゴールは自社の事業構想の再構築です。

- 実証的な研究や討論を通し、自社を客観的に見つめ直し事業構想を策定し、自社における「NEXT STAGE」を考えます。



■カリキュラム：

回	課題シート・講義内容
1	オリエンテーション
2-3	わが社の経営の現状を語る(1泊2日合宿)
4	現状を分析する
5	存在意義を問う
6	コアコンピタンスを定義する
7	戦略シナリオを考える
8	財務構造を改善する
9	組織文化の変革を仕掛ける
10	ビジネスプランを練り上げる
11	わが社の経営の将来を語る(自社の事業構想の発表)

2-9

人材育成

SIC 職場リーダー養成塾

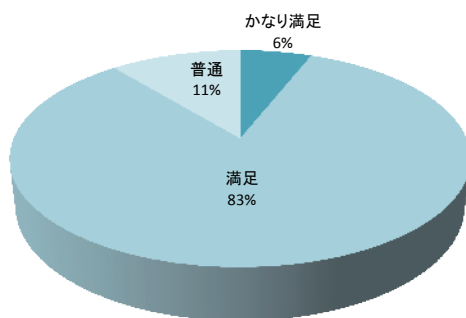
事業の目的

地域企業の様々な職場リーダーとの他流試合を通じてコミュニケーション力と課題解決力を養う。

▶ 受講生

18名 累計 139名

▶ 顧客満足度



▶ 顧客の声

- ・業種や役職の異なるリーダーのさまざまな考えを聞くことができて、刺激を受けた。
- ・部下や同僚など、周囲を巻き込んで課題解決に取り組むことの重要性を理解した。
- ・課題解決に必要な枠組みを理解しながら、研修中に実際に抱えている課題を解決することができた。
- ・コミュニケーション研修を通じて、効果的な部下との接し方を学んだ。
- ・時間管理を意識的に取り入れて業務に向き合うようになった。

▶ 受講生の年齢構成



▶ カリキュラム

	開催日	内容
1	平成 27 年 6 月 20 日 (土)	オリエンテーション・職場のコミュニケーション①
2	平成 27 年 7 月 2 日 (木)	目指す職場リーダー像を明確にする 課題解決の枠組みを理解する 職場の問題を抽出する
3	平成 27 年 7 月 15 日 (水)	
4	平成 27 年 8 月 4 日 (火)	職場のコミュニケーション②
5	平成 27 年 9 月 9 日 (水)	職場の課題解決① (課題把握、目標設定、目標設定)
6	平成 27 年 9 月 24 日 (木)	職場の課題解決② (原因推定、対策検討、実行計画)
7	平成 27 年 9 月下旬 ~ 11 月下旬	社内実践期間
8	平成 27 年 12 月 4 日	成果発表会



2-10

人材育成

SIC カイゼン・スクール

事業の目的

企業が全社展開し、継続して実施することで経営体質の強化に結びつく“カイゼン活動”を受講生が体系的に理解し、研修を通して自社内における課題を抽出してその解決に向けたカイゼン活動により「小さな成功」を生み出すことを目的としています。

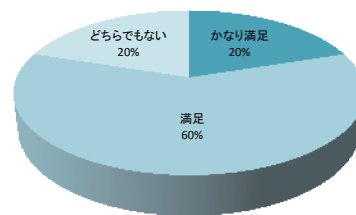
▶ 受講生

- ・ 11名 累計 43名
(平成25年は「SIC カイゼン研究会」として実施)
- ・ 製造業の現場リーダー層を対象としています

＜受講した企業の業種＞

伸銅品製造、金属表面処理加工、文具加工、
無線機販売・レンタル、金属部品加工、
機械部品製造・組立、溶接機製造 など

▶ 受講生の満足度



▶ カリキュラム

日程	講義内容	
7月下旬～8月下旬	現場訪問	受講企業様の会社をカイゼン・マイスターが訪問し、現場診断とスクール受講の事前ヒアリング
9月5日(土)	オリエンテーション カイゼンの全体像	スクール開催のオリエンテーションとカイゼン活動の目的、カイゼンの全体像についての講義
9月19日(土)	講義・ グループワーク①	カイゼンの手法について講義とグループワーク
10月1日(木)	現場実習①	先端的なカイゼン活動を行っている現場を見学
10月10日(土)	講義・ グループワーク②	カイゼン活動に必要な標準化などについて講義とグループワーク
10月27日(火)	現場実習②	他社の工場を見学し、それまでに学んだカイゼンの手法によるカイゼン提案を実施
11月14日(土)	カイゼン計画書 ブラッシュアップ	品質管理についての講義及び成果発表会で報告するカイゼン計画書のブラッシュアップ
11月21日(土)	成果発表会	スクール開講時に設定した自社の現場での課題について、その解決に向けた「カイゼン計画書」をスクール受講の成果として各自発表。

▶ 修了生の声

- ・ 今回、カイゼンの意識をより高めるキッカケの場を与えてもらいました。これを活かして社内全体にカイゼンに対する考え方を浸透させていきたいと思います。
- ・ カイゼン手法を学ぶことで、今まで何をどのように進めればよいのか分からなかったのが、進め方、カイゼンの方法が分かり、活動をスムーズに進めることができました。
- ・ 講義だけでなく実際の工場を見学することで、見本となつてとても参考になりました。
- ・ カイゼン・マイスターの方々の熱意あるご指導と内容盛りだくさんのテキスト類に大満足でした。
- ・ カイゼン活動を通して物事に疑問を持つようになったことが自分にとって大きな成長となりました。



▶ スクールの内容



受講生の課題の明確化

事前の現場診断、ヒアリングによって自社の課題と解決の方向性を受講生自身で明確化させます。



講義・現場実習

講義や現場実習を通じてカイゼン活動の体系、考え方を学び、設定した課題の解決方法を探ります。



カイゼン計画書

会社の経営方針に基づき、設定した課題解決に向けて、学んだカイゼン手法を取り入れた具体的な実施計画書を策定、成果報告会で発表します。



事前現場診断、講義・現場実習の講師は
(株)カイゼン・マイスターのアドバイザーです。

2-11

人材育成

さがみはら子どもアントレプレナー体験事業

事業の目的

小学生を対象に初めて出会う仲間と会社設立から決算までの起業のプロセスを疑似体験することで以下のようなことを学ぶ。

1. 会社や経済の仕組みを知る
2. 失敗を恐れずに挑戦できる心を養う
3. 自分の考えで行動できる力を養う
4. チームワークの大切さを知る
5. お金の大切さを実感する

参加者数

48 名 累計 619 名

顧客満足度

- | | |
|---------------------|-----|
| ① 会社の仕組みを理解することができた | 68% |
| ② 将来、自分で会社を作りたい | 38% |
| ③ お金に対するイメージが変わった | 77% |

＜保護者アンケート＞	非常に満足	89%
	満足	11%



事業概要

	開催日	内容
1 日目	平成 27 年 8 月 14 日 (金)	・ 会社設立 ・ 事業計画書作成
2 日目	平成 27 年 8 月 15 日 (土)	・ 融資交渉 ・ 材料仕入れ ・ 商品製造
3 日目	平成 27 年 8 月 16 日 (日)	・ 販売 ・ 決算 ・ 報告会 ・ 修了式



参加者の声

- ・ 自分で頑張って苦労して会社を作って見たいと思った。
- ・ いつも普通にお金を使っているけれど、両親が一生懸命働いてもらったお金だからもっと大切に使うべきだと思った。
- ・ お金を稼ぐのは予想以上に大変でびっくりした。
- ・ もともと 100 円はとっても大事だと思っていたけど、10 円も大事だと思った。
- ・ お給料で両親に何か買ってあげたいと思っている。

保護者の声

- ・ 帰り道で「おこづかいが欲しい」と金額交渉されました。「何にいくら使うから、月にいくら欲しい」と言ってきたのは、今回のキャンプの成果かと思います。
- ・ 買物に行ってもむやみにねだったり、こちらが欲しいかと尋ねても「いらない」と答える場面が増えました(笑)。
- ・ 小学生のうちに社会のしくみを実際に学べることはとても良い刺激になると思います。
- ・ 子ども達をぐーんと成長させて頂きまして心からありがとうございました！！
- ・ 学校の友だちだけでなく“さがみはら”という同じ地域の同じ学年の子どもたちが“今”を考え、感じられる機会を今後も作っていただけたら嬉しいです。
“さがみはら”の活性化のためにも。

2-12

人材育成

SIC アントレ・インターンシップ

事業の目的

さがみはら子どもアントレプレナー体験事業の企画運営を通して、『既成の固定概念に捉われることなく、新たな領域に、自ら考え出したアイデアで、失敗を恐れずに挑戦する気概に溢れた人材』とは何かを理解するとともに、実社会において社会人とはどうあるべきかを学ぶ。



参加者数 3 名 累計 126 名



参加者の声（アントレ・インターンを一言で言うと。13 期生へのメッセージ）

- ・「自分を大きく突き破ることができるインターンシップ」
私はこのインターンシップを通じて、社会人として働く自覚、仕事をする上で大切なことを学んで成長し、今後の自分自身の新たな課題を見つけることができました。学校では味わうことのできない、達成感・充実・成長がここにあります。少しでも興味があるなら、ぜひ 1 歩踏み出してみてください。
- ・「人生を変える経験と出会いが待つインターンシップ」
アントレ準備期間は本当にキツイです！逃げ出したいと何度も思いました。でも、アントレが終わった後の達成感を感じてしまったらもうそんなものは些細なことと感じてしまいます。これはたぶん自分だけでなく経験者の多くがそうなのだと思います。だから毎年のように多くの先輩の方が準備期間、当日に手伝いに来てくださる理由だと思います。ほとんどの人がアントレ馬鹿になってしまいます。それだけの経験がこのインターンではできます。
- ・「疲労感、危機感、達成感。」
今の自分の生活に不満があったり、もやもやがあるなら参加してみてください。必ず変わります。いや、変わらされます。



事業概要

毎年 8 月に開催する「さがみはら子どもアントレプレナー体験事業」の企画運営を大学生が中心となっていくものです。

	開 催 日	内 容	概 要
1	平成 27 年 6 月 14 日（日）	キックオフ	経営者講演、ビジネスマナー研修
2	平成 27 年 6 月 21 日（日）	コミュニケーション研修	受講生同士のコミュニケーションの促進やチームワークの強化方法について学ぶ
3	平成 27 年 6 月～8 月	企画・準備	企画、準備を行う
4	平成 27 年 7 月 19 日（日）	コーチング研修	子どもの考えや思いの引き出し方を学ぶ
5	平成 27 年 8 月 14 日（金） ～16 日（日）	子どもアントレ	小学生に会社経営の疑似体験プログラムを提供する
6	平成 27 年 10 月 15 日（木）	アントレ実施結果報告、修了式	アントレの実施結果を報告



2-13

人材育成

サガツクナビ（地元企業と学生との出会いをつなぐ）

事業の目的

“地元企業の採用の円滑化”と“地元で働きたい学生の就職の円滑化”を目指して、神奈川県県央地域、東京都多摩地域をフィールドに定め、地元企業の魅力を伝えるイベントとインターネットでの企業情報の発信の両輪で地元企業と学生の出会いの場を創出し、新卒採用（就職）のサポートをいたします。

さらに、若い力の“早期の戦力化”と“定着率の向上”を目指して、研修サービスの充実を図っています。



実績

地元企業内定者数 : 21名

メールマガジン : 配信回数 77 回、受信者数延べ 8,857 名（学生 5,892 名、教職員 1,953 名、企業 1,012 名）

採用直結イベント（合同説明会、学内合同説明会等） : 11 回開催、学生 300 名超が参加

企業 PR イベント（学生と企業の交流会、個別相談会等） : 18 回開催、学生約 80 名が参加

インターンシップ（企業取材、イベント企画） : 26 回開催、学生延べ 134 名が参加



イベント

＜採用直結イベント＞ 地元企業への就職を希望する学生（4 年生）と企業との交流。

①「ジョブミーツ」（合同説明会）

② 大学共催 学内合同説明会



＜企業 PR イベント＞ 地元企業の認知度向上、学生の就業意識の向上（キャリア教育の一環）を図る。

① 大学見学ツアー：地元企業が大学を訪問し、学内見学、教職員との意見交換、学生との意見交換を実施

② 出前講義：地元企業の採用担当者が大学に出向き、業界の現状や展望、仕事のおもしろさややりがいなどについて講義

③ 企業見学ツアー：学生が地元企業を訪問し、独自の最先端技術に触れるとともに、社会人としての心構えを学ぶ

④ 個別相談会、勉強会等：・就職活動中の学生を対象とした個別相談会を開催 ・就活対策講座「ジョブスタディ」を開催 ・“働くを知る”をテーマに、採用担当者や若手社員を講師に迎え「ジョブアクション」を開催 ・採用活動を控えた企業を対象に「採用改革セミナー」を開催



インターンシップ

「自分にとっての“働く”“天職”“いい会社”を選ぶものさしを見つける」ことを目的に、学生目線によるイベントの企画運営や情報発信を実施。

①「ジョブトーク」（地元企業と学生の交流会）

就活を控えた学生が経営者や採用担当者に就活における不安を相談する形式で実施

②企業取材：学生による学生のための地元企業の魅力発信、取材活動を通じて自身の職業観の醸成を図るために実施



2-14

資金調達

SIC1 号投資事業有限責任組合

事業の目的

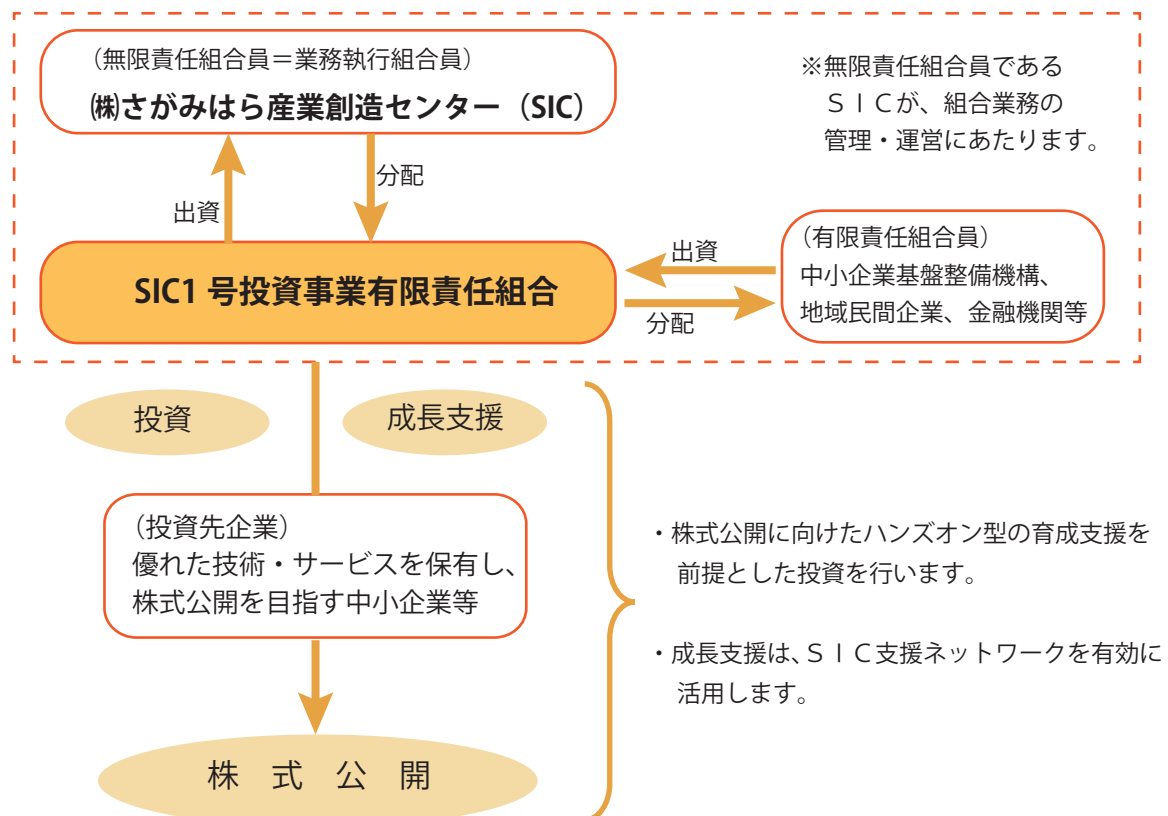
- ・S I C の金融支援サービス機能の強化（ハンズオン型企業成長支援の確立）

▶ 投資先企業

地域（投資時）		設立年月（投資時）		現在の状況（28 年 3 月末）	
SIC 入居企業	6 社	設立 7 年未満	11 社	保有継続企業	1 社
神奈川県	1 社	その他	0 社	回収済企業	7 社
東京都	4 社			未回収企業	3 社
計	11 社	計	11 社	計	11 社

▶ 内容

- ・平成 17 年 11 月に 5 億円のファンドを組成
- ・現時点までに設立 7 年未満のアーリーステージの企業 11 社に 344 百万円を投資実行
- ・ファンドの期限を 1 年間延長し、投資先企業の成長支援を継続するとともに、出口戦略を明確にし、投資回収に向けた交渉を行う。



2-15

販路開拓

台湾ビジネスサポート事業（海外販路開拓支援事業）

事業の目的

地域企業が継続的に発展するために海外展開をサポートする。特に、中国への足掛かりを有し、市場の成長性、電子業界の集積度、生産技術力が高く、産業のインフラが整っている「台湾」をターゲットとする。

▶ 事業概要

個別支援

- ①SIC 日台ビジネスマッチング参加企業の継続的フォローアップ
- ②台湾商品輸入販売に向けた市場調査及び台湾企業との商談サポート
- ③TAITRA 東京事業所の協力による台湾企業からの調達に関する商談サポート
- ④台湾からの物品調達の調査・商談サポート

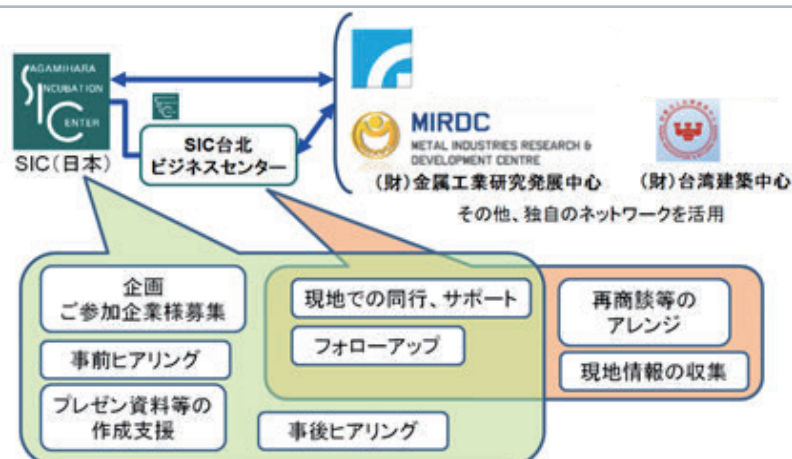
情報交換会

- ①台北コンピューター協会（T C A）を通じた台湾企業7社と日本企業5社
- ②台湾工業技術研究院（I T R I）と日本企業3社
- ③行政院世界企業誘致総合サービスセンター（I T S C）と日本企業1社

▶ 顧客の声

- ・受託開発や OEM 生産、販路開拓など受発注先が見つかった。
- ・大手企業との提携を実現できた。
- ・海外現地法人を設立するきっかけづくりになった。
- ・素早い意思決定や行動力とそれを実現する組織づくりの重要性を知った。
- ・自社の技術や製品が海外でも十分に通用することが分かった。

▶ 運営体制



2-16

インキュベーションコンサルタント 運営サポート事業

事業の目的

新たにビジネスインキュベータを整備しようとする機関に対しS I Cが長年培ってきた企業支援、支援ネットワークの構築、施設運営、B I 経営に関する知識やノウハウを提供する。

▶ T-BISC(Tokyo business incubation support center)の整備、運営のサポート

平成24年に、一般財団法人機械振興協会と全国の神戸、堺、岡山、えひめ東予などの産業振興機関がコンソーシアムを結成し、地方のビジネスインキュベータに入居する創業間もない企業が関東で活躍するための拠点を整備した。S I Cは、施設整備、立ち上げ、運営をサポートしている。



3-1

さがみはら産業創造センターの歩み

1998 年度 (平成 10 年度)	・検討会の提言…市内の若手経営者、相模原市などの若手スタッフによる検討会が相模原市にセンター整備を提言
1999 年度 (平成 11 年度)	・会社設立…相模原市、相模原商工会議所及び新事業創出促進法に基き地域振興整備公団（現中小企業基盤整備機構）が出資し会社設立 ・増資…地元企業や地域金融機関などが出資 ・第 1 回女性起業家育成セミナー開催
2000 年度 (平成 12 年度)	・S I C - 1（インキュベーションセンター）オープン ・第 1 回ビジネスプランコンテスト開催
2001 年度 (平成 13 年度)	・第 1 回さがみはら子どもアントレプレナー体験事業開催 ・増資…相模原市、地域振興整備公団（現中小企業基盤整備機構）、地元企業が出資
2002 年度 (平成 14 年度)	・S I C - 2（ポストインキュベーションセンター）オープン ・女子美術大学と「ヒューマンデザイン開発支援事業」に関する協定を締結、中小企業のデザインを支援するデザイン開発支援事業を開始 ・経済産業省から「即効型地域新生コンソーシアム事業」を受託 ・第 1 回「S I C 経営塾」開講
2003 年度 (平成 15 年度)	・職業能力開発総合大学校と「地域企業活性化支援事業」に関する協定を締結 ・八千代銀行と「起業家支援事業」に関する協定を締結 ・地域企業 4 5 0 社の実態調査を実施
2004 年度 (平成 16 年度)	・神奈川工科大学と「産学連携事業」に関する協定を締結 ・第 1 回「S I C アントレ・インターンシップ」開講 ・かわらばん（入居企業版）創刊号発行
2005 年度 (平成 17 年度)	・S I C 1 号投資事業有限責任組合（S I C ファンド）を組成 ・神奈川県「新産業創出拠点形成促進事業」を受託 ・S I C 燃料電池研究会が発足 ・第 1 回 SIC 起業家塾開講
2006 年度 (平成 18 年度)	・相模原市から「首都圏南西地域産業活性化フォーラム」の運営を受託
2007 年度 (平成 19 年度)	・第 1 回職場リーダー塾開講 ・S P S 研究会が発足
2008 年度 (平成 20 年度)	・株式会社カイゼン・マイスターと業務提携し、地元企業向けのカイゼン支援を開始 ・かわらばん（地域企業版）創刊号発行
2009 年度 (平成 21 年度)	・さがみはら企業力支援事業を開始、併せてメンター（経営指南者）制度を創設 ・緊急雇用事業を相模原市から受託し、大規模な市内企業実態調査や産業界の人づくり支援事業などの人材育成に取り組む ・経済産業省から「低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」を受託
2010 年度 (平成 22 年度)	・さがみはら表面技術研究所オープン ・インキュベーション型シェアードオフィス「DESK®」オープン ・第 1 回台湾ビジネスマッチングを開催
2011 年度 (平成 23 年度)	・台湾工業技術研究院と連携協定を締結 ・S I C - 3（イノベーションラボ）オープン ・S I C 台湾ビジネスセンターオープン ・経済産業省「戦略的基盤技術高度化支援事業」を受託 ・企業紹介冊子「おもしろ企業の魅力拝見！」出版 ・地域発信冊子「葎尾根のブルーベリー」発行
2012 年度 (平成 24 年度)	・神奈川県「かながわ環境関連産業ネットワーク事業」等を受託 ・経済産業省「高度実践型支援人材育成事業」を受託 ・インキュベーションセンター「T-B I S C」、「M B D A」の計画・運営サポートを受託 ・第 1 回 SIC カイゼン研究会開講 ・第 1 回南西フォーラムビジネスマッチング開催
2013 年度 (平成 25 年度)	・財団法人台湾建築中心と連携協定締結 ・財団法人金属工業研究発展中心と連携協定締結
2014 年度 (平成 26 年度)	・地域密着型就職支援事業「サガツク」を開始 ・全国中小企業団体中央会「ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業」受託 ・神奈川県「ロボット実証実験支援事業」重点プロジェクト事業受託
2015 年度 (平成 27 年度)	・相模原市から産業用ロボット導入支援事業を受託し、さがみはらロボット導入支援センターをオープン ・神奈川県「成長産業育成支援事業」受託

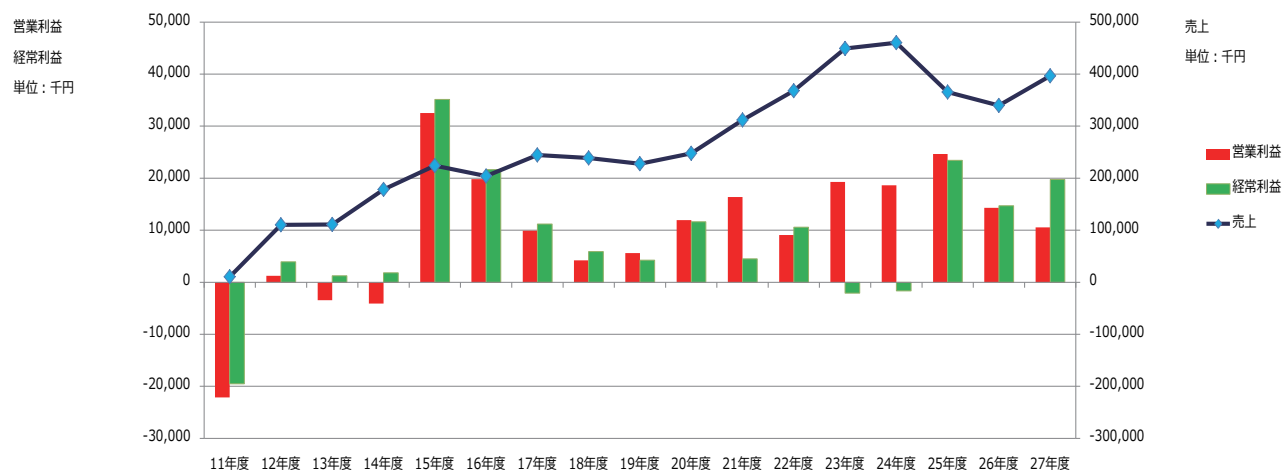
3-2

主な事業と開始年度（カテゴリー別）

年 度	ラボ・オフィス	経営サポート	技術開発	人材育成	資金調達	販路開拓
1999年度 (平成11年度)		・ビジネスプランコンテスト	・新規成長産業連携支援事業	・女性起業家育成セミナー		
2000年度 (平成12年度)	SIC-1 オープン	・株式公開塾 ・入居企業セミナー	・中小企業のための技術セミナー			
2001年度 (平成13年度)			・ミニコンソーシアム事業	・さがみはら子どもアントレプレナー体験事業（小学生）		
2002年度 (平成14年度)	SIC-2 オープン	・アントレフォスター事業 ・中小企業のデザイン開発支援	・経済産業省「即効型地域新生コンソーシアム」受託	・SIC経営塾・さがみはら子どもアントレプレナー体験事業（中高生）		・KSPベンチャーマッチング商談会に参画
2003年度 (平成15年度)		・八千代起業家支援プログラム ・地域企業実態調査（450社）	・大学シーズ調査	・SIC経営者セミナー		
2004年度 (平成16年度)		・さがみはら青年アントレプレナープロデュース事業 ・かわらばん（入居企業版）創刊号発行	・新技術創造研究会	・SICアントレ・インターン		
2005年度 (平成17年度)			・神奈川県「新産業創出拠点形成促進事業」受託 ・燃料電池研究会発足	・SIC起業家塾	・SIC1号投資事業 有限責任組合組成	
2006年度 (平成18年度)		・チャレンジショップ	・「首都圏南西地域産業活性化フォーラム」受託	・SIC起業家育成大学校	・入居企業4社、地域企業3社に出資	
2007年度 (平成19年度)			・SPS研究会	・SIC職場リーダー養成塾		
2008年度 (平成20年度)		・中小企業のカイゼン活動支援 ・かわらばん（地域企業版）創刊号発行	・実用化開発支援			・SICテクノロジーマッチング ・KSP協創マッチングフォーラムに参画
2009年度 (平成21年度)		・メンター制度 ・さがみはら企業力支援事業 ・地域企業実態調査（500社）	・経済産業省「低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」受託	・地域産業界の人づくり支援事業 ・さがみはら未来塾 ・ベンチャー・中小企業人材確保支援事業		
2010年度 (平成22年度)	DESK® オープン	・ソーシャルビジネス創育支援事業	・高度研究人材活用事業（さがみはら表面技術研究所） ・神奈川県パイオベンチャー人材活用事業			・台湾ビジネスマッチング開催 ・川崎市産業振興財団新事業マッチングフォーラム参画
2011年度 (平成23年度)	SIC-3 オープン	・企業紹介冊子「おもしろ企業の魅力拝見！」出版 ・地域発信冊子「葎尾根のブルーベリー」発行	・経済産業省「戦略的基盤技術高度化支援事業」受託 ・新製品開発のための「協創プロジェクト」 ・相模原市から「新技術実用化コンソーシアム形成支援事業」受託	・ISB公共未来塾		・台湾工業技術研究院と協定 ・SIC台湾ビジネスセンターオープン
2012年度 (平成24年度)	「T-BISC」、 「MBDA」 の計画・運営サポート	・地域発信冊子「里山コミュニティ」発行 ・企業紹介冊子「い〜コトなび」発行	・神奈川県「かながわ環境関連産業ネットワーク事業」	・SICカイゼン研究会 ・経済産業省「高度実践型支援人材育成事業」 ・女性力発揮セミナー ・子どもワークショップ ・SICカイゼンスクール		・日本台湾アライアンスセミナー ・南西フォーラムビジネスマッチング
2013年度 (平成25年度)			・可搬型燃料電池・飲料水供給装置の開発			・財団法人台湾建築中心、財団法人金属工業研究発展中心と連携協定を締結 ・日台環境・建築ビジネスマッチングを開催
2014年度 (平成26年度)			・全国中小企業団体中央会「ものづくり中小企業・規模事業者連携支援事業」 ・神奈川県「ロボット実証実験支援事業」重点プロジェクト事業	・「サガツクナビ」ポータルサイト運営開始		
2015年度 (平成27年度)			・相模原市「産業用ロボット導入支援事業」 ・相模原市「コンソーシアム加速化支援事業」受託			

3-3 財務状況

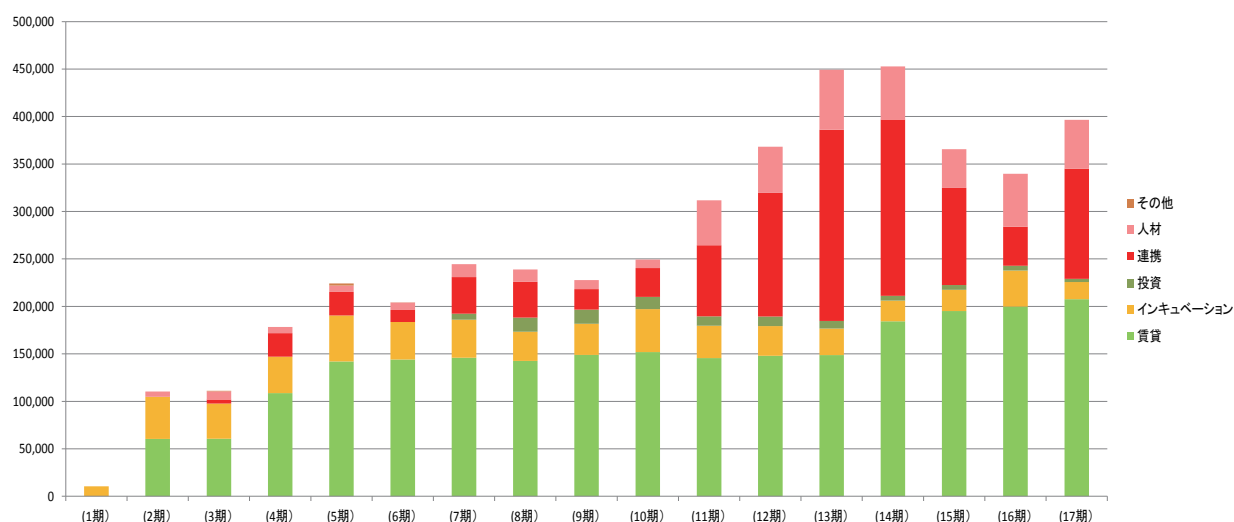
P／L 推移



	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)	24年度 (14期)	25年度 (15期)	26年度 (16期)	27年度 (17期)
売上	10,429	110,264	111,008	178,323	224,271	204,022	244,523	238,812	227,805	247,560	311,824	368,145	449,221	452,739	365,658	339,759	396,465
営業利益	-22,122	1,257	-3,455	-4,101	32,523	19,804	9,914	4,219	5,620	11,946	16,397	9,080	19,283	18,649	24,640	14,298	10,548
経常利益	-19,522	3,922	1,256	1,817	35,141	21,656	11,200	5,910	4,242	11,604	4,514	10,568	-2,082	-1,641	23,436	14,711	19,727

事業別売上高の推移

単位：千円



	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)	24年度 (14期)	25年度 (15期)	26年度 (16期)	27年度 (17期)
質貸	0	60,473	60,622	108,655	142,026	143,982	145,990	142,525	148,914	151,930	145,552	147,969	148,705	184,290	195,181	199,726	207,547
インキュベーション	10,429	44,344	37,125	38,379	48,475	39,669	40,038	30,769	32,709	45,225	34,042	31,402	28,039	21,837	22,348	38,000	18,204
投資	0	0	0	0	0	0	6,250	15,000	15,000	12,915	9,999	10,000	7,917	5,000	5,000	5,000	3,250
連携	0	0	4,130	24,713	24,744	12,530	38,545	37,595	21,655	30,258	74,868	130,200	201,456	185,723	102,340	41,195	116,116
人材	0	5,447	8,629	6,576	6,785	7,809	13,699	12,922	9,525	8,969	47,363	48,574	63,105	55,889	40,788	55,837	51,349
その他	0	0	502	0	2,240	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
売上合計	10,429	110,264	111,008	178,323	224,271	204,022	244,523	238,812	227,805	247,560	311,824	368,145	449,222	452,739	365,658	339,759	396,466

3-4

競争的資金の獲得

年 度	資金獲得先	事 業 名	資 金 額
平成 14 年度	経済産業省	即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業 「次世代デバイス用超高精度ナノレベル研磨・洗浄複合装置の開発」	40,000
平成 17 年度	神奈川県	新産業創出拠点形成促進事業 「燃料電池システムにおける本体及び周辺機器・部品の開発」	20,000
平成 18 年度	神奈川県	新産業創出拠点形成促進事業 「燃料電池システムにおける本体及び周辺機器・部品の開発」	22,000
平成 20 年度	中小機構	川上川下ネットワーク構築支援事業 「次世代エネルギーシステムの早期実用化ネットワーク構築」 新現役チャレンジ支援事業 「新現役人材による中小企業支援のモデル事業としてカイゼン支援プログラム開発」 ビジネス・インキュベータ（B I）における広域的ネットワーク構築の調査事業 「グループインキュベーション」手法の開発と検証 ―ネットワークによる支援と手法のネットワーク化―	25,600
	神奈川県	ベンチャー創出促進モデルプロジェクト事業 「動物病院医療市場を対象とした犬のアレルギー及び免疫検査受託事業」 「静電エンコーダの事業化」	
平成 21 年度	経済産業省	低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業 「太陽光雨水などの自然の恵みを有効活用した安全・安心な低炭素社会システムの構築」	64,000
平成 22 年度	経済産業省	中小企業海外販路開拓支援事業（台湾ビジネスマッチング） 「神奈川県ビジネス・インキュベータ連携による I T / エレクトロニクス分野 研究関連型ベンチャー企業の海外販路支援事業」	11,500
平成 23 年度	経済産業省	戦略的基盤技術高度化支援事業 「次世代パワーデバイス向け革新的手法を用いた成膜技術の開発」	7,000
	中小機構	B I ネットワーク構築事業 「T-B I S C の整備に協調・連携した国内外ビジネスマッチング事業」	
	神奈川県	新産業ベンチャー事業化支援事業 「生物機能制御・改善のための体内時計調節剤及び関連試薬の開発」	
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「表面形状を制御した低摺動医療用機能部品の要素開発」	
平成 24 年度	経済産業省	戦略的基盤技術高度化支援事業 「次世代パワーデバイス向け革新的手法を用いた成膜技術の開発」 高度実践型支援人材育成事業	101,700
	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業 かながわエネルギー関連ベンチャーマッチング・パートナーリング支援事業	
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「表面形状を制御した低摺動医療用機能部品の要素開発」	
平成 25 年度	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業	8,000
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成事業 「表面形状を制御した医療用機能部品の要素開発」	
平成 26 年度	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業 かながわ成長産業イノベーション事業	33,900
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成事業 「ハーブ等植物の家庭用高効率栽培システムの開発」	
平成 27 年度	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業 かながわ成長産業育成支援事業	21,470
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「ハーブ等植物の家庭用高効率栽培システムの開発」 コンソーシアム加速化支援事業	

3-5

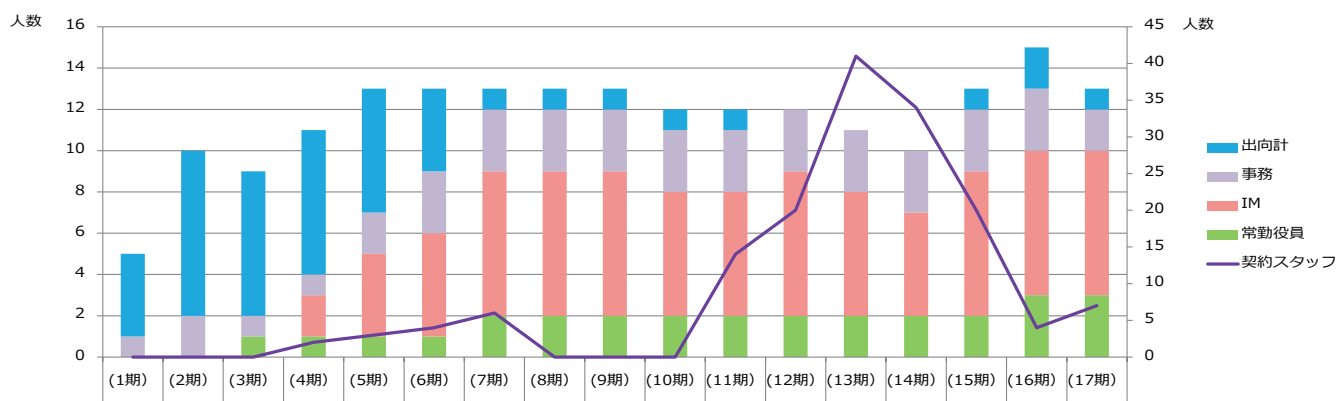
当社及び SIC ファンドの出資状況

	当 社		SIC ファンド	
	入居企業	地域企業	入居企業	地域企業
平成 13 年度		1 社 (2,400)		
平成 14 年度		1 社 (2,100)		
平成 16 年度				
平成 18 年度	1 社 (5,000)		4 社 (120,000)	3 社 (71,000)
平成 19 年度	1 社 (5,000)		1 社 (20,000)	2 社 (92,000)
平成 20 年度			1 社 (20,100)	
平成 21 年度				1 社 (6,752)
平成 22 年度				1 社 (15,000)

* () 数字は金額 単位：千円

3-6

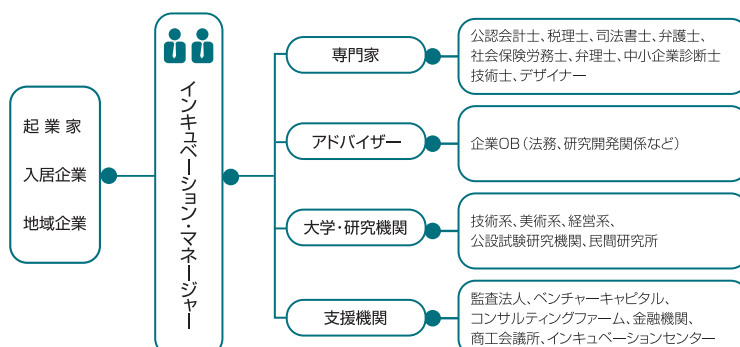
スタッフ数の変遷



	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)	24年度 (14期)	25年度 (15期)	26年度 (16期)	27年度 (17期)
常 勤 役 員	0	0	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3
非 常 勤 役 員	13	13	13	13	15	15	13	12	11	10	10	10	11	11	12	13	12
IM	0	0	0	2	4	5	7	7	7	6	6	7	6	5	7	7	7
事 務	1	2	1	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
相 模 原 市 から 出 向	3	5	5	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中 小 機 構 から の 出 向	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
銀 行 から の 出 向	1	3	1	2	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1
出 向 計	4	8	7	7	6	4	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1
計	5	10	8	10	12	12	11	11	11	10	10	10	9	8	11	12	12
契 約 ス タ ッ フ	0	0	0	2	3	4	6	0	0	0	14	20	41	34	20	4	7
パ ー ト タ イ マ ー	0	1	1	4	2	2	4	3	1	1	1	1	3	3	3	4	2

3-7

支援ネットワーク



3-8

視察・研修

平成 27 年度 国内

名 称	
視 察	
関東経済産業局	
四国経済産業局	
中国経済産業局	
研 修	
財団法人 日本立地センター	ビジネス・インキュベーション（B I）研修
財団法人 日本立地センター	インキュベーション・マネージャー研修

海外

年 度	名 称	
平成 17 年度	チュニジアベンチャーキャピタル協会 海外技術者研修	チュニジア アジア、アフリカ諸国
平成 19 年度	集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー（J I C A） モンゴル中小企業振興研修	アジア、アフリカ、中東、中南米諸国 モンゴル
平成 20 年度	集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー（J I C A）	アジア、オセアニア、アフリカ諸国
平成 21 年度	集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー（J I C A） 韓国インキュベーションスタッフ研修	アジア、オセアニア、アフリカ諸国 韓国
平成 22 年度	オマーン技術大学指導員研修 無錫市政府 マレーシア国職業訓練校指導員研修	オマーン 中国 マレーシア
平成 23 年度	工業技術研究院 中国山東省（対日投資）視察団	台湾 中国
平成 24 年度	中小企業支援法制度検討視察（J I C A） 国際企業人材育成センター日本語プログラム研修 （台湾貿易センター）	ベトナム 台湾
平成 25 年度	アフリカ地域女性起業家支援セミナー（J I C A） 台湾工業技術研究院 産業経済與趨勢研究中心	アフリカ諸国 台湾
平成 26 年度	シンガポール国立大学	シンガポール
平成 27 年度	法政大学（欧州産学連携研究者視察団） トロント市議会 中国 無錫市 韓国技術ベンチャー財団 台湾 行政院世界企業誘致総合サービスセンター 台湾 工業技術研究院 台湾 台北市コンピュータ協会 アメリカ オースインアジア商工会 タイ対日技術振興協会	欧州 アメリカ 中国 韓国 台湾 台湾 台湾 アメリカ タイ

3-9

新聞掲載 (26 年度)

年月日	新聞名	表 題
2015.05.01	サポートかながわ	2015.SIC 経営塾、SIC 職場リーダー養成塾 塾生募集
2015.05.10	かながわ経済新聞	ロボット導入支援「県内初、支援センター設立」
2015.07.15	日刊工業新聞	ロボット産業で世界から注目される施設に
2015.08.10	相模経済新聞	トヨタ式カイゼン学ぶ
2015.08.10	かながわ経済新聞	南西フォーラム iPS 細胞関連ビジネス 参入で中小企業連携
2015.08.28	N H K	中小企業のロボット導入を支援
2015.09.05	日本経済新聞	相模原 ロボ導入へ発信
2015.09.09	読売新聞	中小企業のロボ導入支援
2015.09.10	相模経済新聞	産業ロボット導入を支援
2015.09.30	オートメーション新聞	産業用ロボット活用拠点オープン
2015.10.01	相模経済新聞	橋元社長インタビュー
2015.10.10	かながわ経済新聞	3 D プリンター分科会その 2
2015.10.10	かながわ経済新聞	SIC 橋元社長インタビュー
2015.10.10	相模経済新聞	子どもアントレ・将来の産業人育成狙う
2015.10.10	かながわ経済新聞	3 D プリンター分科会「地域版バーチャルファブ」年度内に実証実験
2015.11.01	相模経済新聞	南西フォーラム「第 4 の産業革命」説明 3 D プリンター導入例も
2016.01.01	タウンニュース	産業支援 生産性上げ「産業に活力を」
2016.01.10	相模経済新聞	第 33 回南西フォーラム 中小企業が宇宙産業へ
2016.01.11	かながわ経済新聞	第 34 回南西フォーラム 鉄道分野進出考える
2016.02.11	タウンニュース	ロボット特区の成果紹介
2016.03.10	かながわ経済新聞	第 34 回南西フォーラム 鉄道分野参入企業の事例

3-10

広報紙 「かわらばん」の発行

▶ SICかわらばん（入居企業版） 内容：入居企業紹介、セミナー等情報提供等

入居企業様と入居企業様そして当センターとのコミュニケーションの促進を図る為に、新しく入居された企業様のご紹介や入居企業交流会、当センターの開催事業、施設関係の細やかなご案内など、当センターでより快適にご入居頂ける事を目的に毎月発行しています。

発行 No.	発行日	紹介企業名（入居企業）
No. 131	平成 27 年 4 月 1 日	(株)スリーダム
No. 132	平成 27 年 5 月 1 日	(株)トライレイズ
No. 133	平成 27 年 6 月 1 日	(株)自動計測
No. 134	平成 27 年 7 月 1 日	
No. 135	平成 27 年 8 月 3 日	ARM Technologies(株)
No. 136	平成 27 年 9 月 1 日	コア商事(株)
No. 137	平成 27 年 10 月 1 日	(株)ACR
No. 138	平成 27 年 11 月 2 日	(株)テクニカルエンジニアリングサポート
No. 139	平成 27 年 12 月 1 日	(合)クレオポッセ
No. 140	平成 28 年 1 月 5 日	
No. 141	平成 28 年 2 月 1 日	(株)ER SYSTEMS
No. 142	平成 28 年 3 月 1 日	(株)トライアンド



▶ SICかわらばん（地域企業版） 内容：地域企業紹介、入居企業紹介、特集記事、セミナー等情報提供、地元紹介等

地域企業様と当センター、地域企業様と入居企業様、地域企業様と地域企業様を繋ぐコミュニケーションツールとなり、入居企業様や地域企業様に親しまれ、企業の皆さまにより良い情報をお届けすることを目的に隔月発行しています。

発行 No.	発行日	紹介企業名（地域企業）	紹介企業名（入居企業）	企画ページ
No. 36	平成 27 年 5 月 15 日	榎本機工(株)	コロンバス精機(株)	※JETRO アジア経済事情と海外進出事例 ベトナム編
No. 37	平成 27 年 7 月 15 日	かながわ経済新聞	(株)プロスリンク	※ようこそ！世界の国からSICへ 台湾
No. 38	平成 27 年 9 月 15 日	医療法人社団秦和会 秦野病院	(株)ジャパン・アドバンスト・ケミカルズ	コートジボワール共和国
No. 39	平成 27 年 11 月 13 日	アイシンク(株)	(株)スリーダム	中華人民共和国
No. 40	平成 28 年 1 月 15 日	(株)マーク電子	(株)トライレイズ	大韓民国
No. 41	平成 28 年 3 月 15 日	(有)光製作所	(株)自動計測	インドネシア共和国



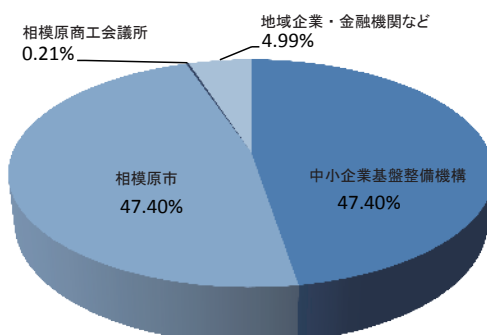
3-11

株主と役員

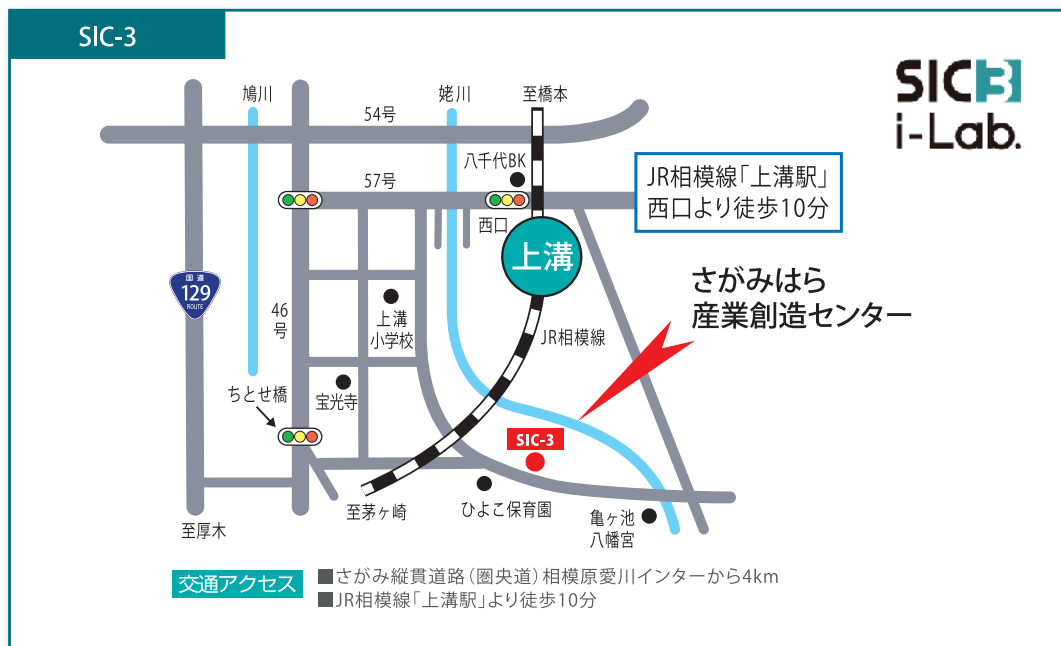
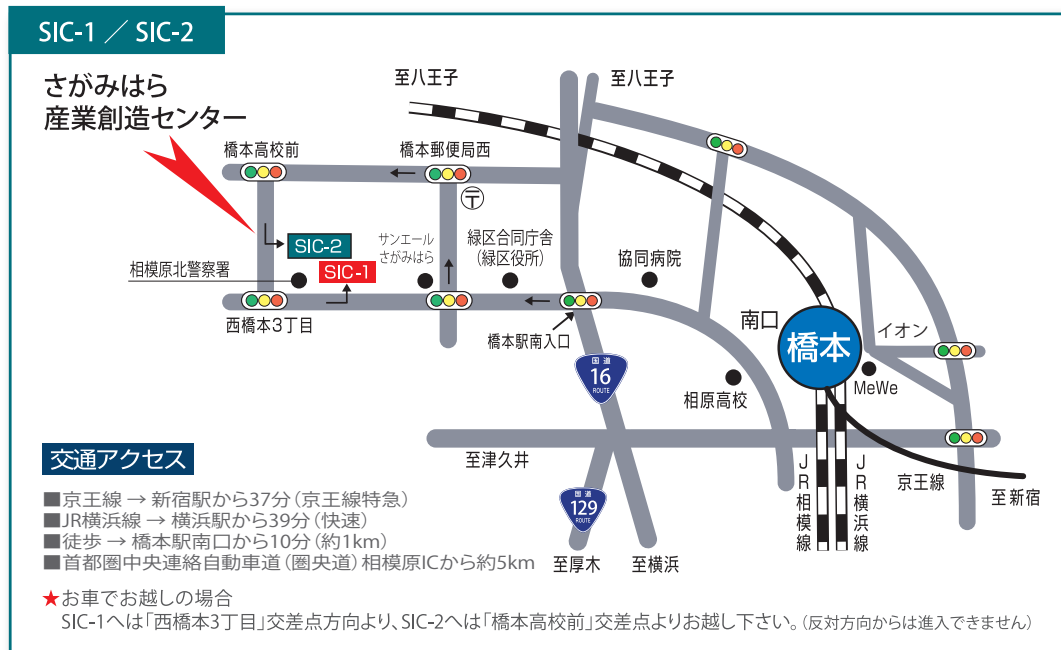
株主数：31 者 発行済株式の総数：47,890 株 資本金：23 億 9,450 万円

相模原市	独立行政法人中小企業基盤整備機構
株式会社ボイス	株式会社ハリマビシステム
古木建設株式会社	株式会社八千代銀行
株式会社横浜銀行	西武信用金庫
湘南デザイン株式会社	株式会社三菱東京UFJ銀行
相模原商工会議所	日本テクノ株式会社
城山工業株式会社	日本電子工業株式会社
三菱重工業株式会社	権田金属工業株式会社
株式会社相模運輸	相模原市農業協同組合
相模ガス株式会社	株式会社昭和真空
株式会社ア・ドマニー	篠崎電業株式会社
タイヨー印刷株式会社	東京海上日動火災保険株式会社
東邦電子株式会社	野村 隆
ブックオフコーポレーション株式会社	アイシンク株式会社
石川幸二	Apex 株式会社

構成割合



代表取締役	橋元 雅敏	
専務取締役	山本 満	
取締役	松岡 康彦	(湘南デザイン株式会社 代表取締役)
	吉田 修一	(株式会社相模運輸 代表取締役)
	山崎 利宏	(城山工業株式会社 代表取締役)
	西澤 勇司	(株式会社キャロットシステムズ 代表取締役)
	杉本 祥一	(株式会社ハイスポット 代表取締役)
	古橋 裕一	(相陽建設株式会社 代表取締役)
	谷 圭介	(相模原市 環境経済局 経済部長)
	久保田 修	(相模原商工会議所 中小企業振興部長)
監査役	石川 幸二	
	原田 恒敏	(公認会計士原田恒敏事務所 代表)
	平田 光子	(日本大学 生産工学部 マネジメント工学科/生産工学研究科 教授)
	原 光宏	(株式会社横浜銀行 相模原駅前支店長)
	佐々木 一彦	(株式会社八千代銀行 相模原法人営業部 部長)



株式会社さがみはら産業創造センター
Sagamihara Incubation Center Ltd.(SIC)

SIC-1 / SIC-2

〒252-0131 神奈川県相模原市緑区西橋本5-4-21

SIC-3

〒252-0243 神奈川県相模原市中央区上溝1880番-2

Tel:042-770-9119(代) Fax:042-770-9077

URL <http://www.sic-sagamihara.jp>